

総務委員会資料

教 育 委 員 会

令和 7 年10月 1 日・ 2 日

1 条例案

第117号議案 使用料及び手数料の額の改定等に関する条例 [関係分] …… P 1

2 予算案

第100号議案 令和 7 年度島根県一般会計補正予算（第 3 号） [関係分] …… P 5

3 報告事項

(1) 障がい者雇用の状況について …… P 11

(2) 令和 8 年度県立高等学校の入学定員について …… P 12

(3) 教職員の働き方改革の進捗状況について …… P 16

(4) 令和 8 年度島根県公立高等学校入学者選抜について …… P 20

(5) 令和 8 年 3 月高校卒業予定者の進路希望状況等について …… P 24

(6) 令和 7 年度全国学力・学習状況調査の結果について …… P 26

(7) 部活動外部指導者制度に係る謝金単価の改定について …… P 43

(8) 令和 7 年度全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会等の成績に
ついて …… P 44

(9) 第49回全国高等学校総合文化祭等の成績について …… P 46

使用料及び手数料の額の改定等に関する条例〔関係分〕

1 改定の趣旨

第2期中期財政運営方針に基づき受益者負担の適正化を図るため、労務費や物価の上昇を踏まえた使用料及び手数料（以下「使用料等」という。）の見直しを一斉に実施する。

2 改正の内容

(1) 使用料等の単価改定に係る基本方針

労務費や物価の上昇を踏まえた使用料等の見直しを行い、受益者負担の適正化を図る。

ア 原則

現行の単価の根拠となっている積算を直近の実績に基づき置き換えて再積算。その結果、5%を超える変動があれば、改定を実施

イ 例外

指定管理施設の使用料（観覧料、ホール・会議室使用料等）については、近隣の類似施設を参考に単価設定していることなどから、人件費、物件費、光熱水費等の上昇率を踏まえて算定した共通の改定率（+10%）を設定

(2) 改正する条例

次に掲げる条例に定める使用料等の額の改定を行う。

改正する条例	改正項目
島根県立高等学校等条例	証明書交付手数料
島根県立青少年社会教育施設条例	使用料
島根県立八雲立つ風土記の丘条例	入館料
島根県立古墳の丘古曾志公園条例	使用料
島根県立古代出雲歴史博物館条例	観覧料

各条例の使用料等の額については、別紙のとおり

3 施行期日等

(1) 施行期日

令和8年4月1日から施行する。

(2) 経過措置

改正前の条例の規定により施設等の使用の許可を受けている者等に係る使用料等については、改正前の使用料等の額を適用する。

使用料等の額

1 島根県立高等学校等条例

証明書交付手数料

改 正 前	改 正 後
1 通につき <u>500円</u>	1 通につき <u>550円</u>

証明書とは、卒業証明書、成績証明書、単位修得証明書、調査書その他の証明書をいう。

2 島根県立青少年社会教育施設条例

(1) 宿泊使用の場合の使用料

区 分	改 正 前	改 正 後
県内者	1 人 1 泊につき <u>1,060円</u>	1 人 1 泊につき <u>1,160円</u>
県外者	1 人 1 泊につき <u>1,600円</u>	1 人 1 泊につき <u>1,760円</u>

(2) 宿泊使用以外の場合の使用料

ア 島根県立青少年の家

(7) 第 1 研修室等

区 分	改 正 前						改 正 後					
	午前 9時 から 正午 まで	午後 1時 から 午後 5時 まで	午後 6時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 午後 5時 まで	午後 1時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 正午 まで	午後 1時 から 午後 5時 まで	午後 6時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 午後 5時 まで	午後 1時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 午後 10時 まで
第 1 研修室、 第 2 研修室、 第 3 研修室、 第 4 研修室又 は特別研修室	円 <u>700</u>	円 <u>930</u>	円 <u>930</u>	円 <u>1,630</u>	円 <u>1,860</u>	円 <u>2,560</u>	円 <u>770</u>	円 <u>1,020</u>	円 <u>1,020</u>	円 <u>1,790</u>	円 <u>2,040</u>	円 <u>2,810</u>
第 5 研修室	<u>1,540</u>	<u>2,060</u>	<u>2,060</u>	<u>3,600</u>	<u>4,120</u>	<u>5,660</u>	<u>1,690</u>	<u>2,260</u>	<u>2,260</u>	<u>3,950</u>	<u>4,520</u>	<u>6,210</u>
第 6 研修室	<u>260</u>	<u>360</u>	<u>360</u>	<u>620</u>	<u>720</u>	<u>980</u>	<u>280</u>	<u>390</u>	<u>390</u>	<u>670</u>	<u>780</u>	<u>1,060</u>
和室研修室	<u>610</u>	<u>810</u>	<u>810</u>	<u>1,420</u>	<u>1,620</u>	<u>2,230</u>	<u>670</u>	<u>890</u>	<u>890</u>	<u>1,560</u>	<u>1,780</u>	<u>2,450</u>
和室206、和室 207 又は和室 208	<u>700</u>	<u>930</u>	<u>930</u>	<u>1,630</u>	<u>1,860</u>	<u>2,560</u>	<u>770</u>	<u>1,020</u>	<u>1,020</u>	<u>1,790</u>	<u>2,040</u>	<u>2,810</u>
音楽室	<u>830</u>	<u>1,130</u>	<u>1,130</u>	<u>1,960</u>	<u>2,260</u>	<u>3,090</u>	<u>910</u>	<u>1,240</u>	<u>1,240</u>	<u>2,150</u>	<u>2,480</u>	<u>3,390</u>
茶室	<u>330</u>	<u>450</u>	<u>450</u>	<u>780</u>	<u>900</u>	<u>1,230</u>	<u>360</u>	<u>490</u>	<u>490</u>	<u>850</u>	<u>980</u>	<u>1,340</u>
試食室	<u>580</u>	<u>770</u>	<u>770</u>	<u>1,350</u>	<u>1,540</u>	<u>2,120</u>	<u>630</u>	<u>840</u>	<u>840</u>	<u>1,470</u>	<u>1,680</u>	<u>2,310</u>
調理室	<u>1,230</u>	<u>1,630</u>	<u>1,630</u>	<u>2,860</u>	<u>3,260</u>	<u>4,490</u>	<u>1,350</u>	<u>1,790</u>	<u>1,790</u>	<u>3,140</u>	<u>3,580</u>	<u>4,930</u>
多目的ホール	<u>2,930</u>	<u>3,900</u>	<u>3,900</u>	<u>6,830</u>	<u>7,800</u>	<u>10,730</u>	<u>3,220</u>	<u>4,290</u>	<u>4,290</u>	<u>7,510</u>	<u>8,580</u>	<u>11,800</u>
体育館	1 時間につき <u>1,980円</u>						1 時間につき <u>2,170円</u>					

(4) 第 1 創作室等

区 分	改 正 前						改 正 後					
	午前 9時 から 正午 まで	午後 1時 から 午後 5時 まで	午後 6時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 午後 5時 まで	午後 1時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 正午 まで	午後 1時 から 午後 5時 まで	午後 6時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 午後 5時 まで	午後 1時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 午後 10時 まで

第1 創作室	貸切りの場合	円 950	円 1,290	円 1,290	円 2,240	円 2,580	円 3,530	円 1,040	円 1,410	円 1,410	円 2,450	円 2,820	円 3,860
	貸切りでない場合 (1人につき)	250	330	330	580	660	910	270	360	360	630	720	990
第2 創作室	貸切りの場合	700	930	930	1,630	1,860	2,560	770	1,020	1,020	1,790	2,040	2,810
	貸切りでない場合 (1人につき)	180	240	240	420	480	660	190	260	260	450	520	710

(7) テニスコート等

区 分		改 正 前	改 正 後
テニスコート	貸切りの場合	1面1時間につき 220円	1面1時間につき 240円
グラウンド		1時間につき 470円	1時間につき 510円

イ 島根県立少年自然の家

(7) 第1研修室等

区 分	改 正 前						改 正 後					
	午前 9時 から 正午 まで	午後 1時 から 午後 5時 まで	午後 6時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 午後 5時 まで	午後 1時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 正午 まで	午後 1時 から 午後 5時 まで	午後 6時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 午後 5時 まで	午後 1時 から 午後 10時 まで	午前 9時 から 午後 10時 まで
第1研修室	円 1,360	円 1,830	円 1,830	円 3,190	円 3,660	円 5,020	円 1,490	円 2,010	円 2,010	円 3,500	円 4,020	円 5,510
第2研修室	880	1,190	1,190	2,070	2,380	3,260	960	1,300	1,300	2,260	2,600	3,560
第3研修室	390	520	520	910	1,040	1,430	420	570	570	990	1,140	1,560
体育館	1時間につき 1,270円						1時間につき 1,390円					

(4) 第2ホール等

区 分	改 正 前			改 正 後		
	午前9時から 正午まで	午後1時から 午後5時まで	午前9時から 午後5時まで	午前9時から 正午まで	午後1時から 午後5時まで	午前9時から 午後5時まで
第2ホール	円 1,260	円 1,690	円 2,950	円 1,380	円 1,850	円 3,230
創作室	950	1,280	2,230	1,040	1,400	2,440
第4研修室又は 第5研修室	620	830	1,450	680	910	1,590
水星棟、金星 棟、火星棟、木 星棟又は土星 棟	2,870	3,850	6,720	3,150	4,230	7,380
地球棟	820	1,120	1,940	900	1,230	2,130

3 島根県立八雲立つ風土記の丘条例

(1) 入館料

区 分	改 正 前		改 正 後	
	個人	団体（20人以上）	個人	団体（20人以上）
大学生	<u>100円</u>	1人につき 80円	<u>110円</u>	1人につき 80円
その他の者	<u>200円</u>	1人につき <u>160円</u>	<u>220円</u>	1人につき <u>170円</u>

(2) 入館料（特別の風土記の丘資料を展示する場合）

次に掲げる額の範囲内において、教育委員会が定める額

改 正 前	改 正 後
<u>1,000円</u>	<u>1,100円</u>

4 島根県立古墳の丘古曾志公園条例

(1) 施設使用料

区 分		改 正 前	改 正 後
野外ステージ	入場料を徴収する場合	1時間につき <u>1,910円</u>	1時間につき <u>2,100円</u>
	入場料を徴収しない場合	1時間につき <u>930円</u>	1時間につき <u>1,020円</u>

(2) 設備使用料

区 分	改 正 前	改 正 後
照明設備	1時間につき <u>630円</u>	1時間につき <u>690円</u>

5 島根県立古代出雲歴史博物館条例

(1) 観覧料（1人1回につき）

区 分		改 正 前		改 正 後	
		個人	団体（20人以上） 又は割引制度適用	個人	団体（20人以上） 又は割引制度適用
常設展	小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者	<u>200円</u>	<u>160円</u>	<u>220円</u>	<u>170円</u>
	大学の学生又はこれに準ずる者	<u>410円</u>	<u>320円</u>	<u>450円</u>	<u>350円</u>
	その他の者	<u>620円</u>	<u>490円</u>	<u>680円</u>	<u>530円</u>

(2) 年間観覧料（同一人が1年間常設展又は企画展を観覧する場合の観覧料）

次に掲げる額以内で教育委員会が定める額

区 分	改 正 前	改 正 後
小学校の児童、中学校若しくは高等学校の生徒又はこれらに準ずる者	<u>1,000円</u>	<u>1,100円</u>
大学の学生又はこれに準ずる者	<u>1,800円</u>	<u>1,980円</u>
その他の者	<u>2,500円</u>	<u>2,750円</u>

令和7年度9月補正予算案（9月10日上程分）の概要について （教育委員会）

令和7年度島根県一般会計補正予算（第3号）

1 補正予算の概要

（単位：千円）

課 名	補正前の額		補正額		補正後の額	
	事業費	一般財源	事業費	一般財源	事業費	一般財源
総務課	70,579,756	57,144,224	△ 1,022,492	△ 1,013,576	69,557,264	56,130,648
給与費	70,380,645	56,945,113	△ 1,031,279	△ 1,022,363	69,349,366	55,922,750
給与費以外	199,111	199,111	8,787	8,787	207,898	207,898
教育施設課	1,588,135	1,217,089			1,588,135	1,217,089
学校企画課	6,381,158	3,924,003	1,030,098	1,025,062	7,411,256	4,949,065
学校教育課	1,106,255	843,730			1,106,255	843,730
教育連携推進課	1,790,278	686,682			1,790,278	686,682
特別支援教育課	1,570,289	1,301,396	12,353	12,353	1,582,642	1,313,749
保健体育課	671,199	644,658			671,199	644,658
社会教育課	831,639	506,413	9,276	0	840,915	506,413
人権同和教育課	88,148	71,137			88,148	71,137
文化財課	1,382,697	980,625	5,549	5,549	1,388,246	986,174
福利課	245,177	196,618			245,177	196,618
合計	86,234,731	67,516,575	34,784	29,388	86,269,515	67,545,963

※給与費は全額総務課で計上

2 課別事業別一覧

(単位：千円)

課名		補正前の額	補正額	補正後の額	補 正 額 の 財 源 内 訳 及 び 概 要					
事業名					国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
教育庁総務課		70,579,756	△ 1,022,492	69,557,264	△ 8,916					△ 1,013,576
1 職員給与費		70,380,645	△ 1,031,279	69,349,366	一般職 8,236人 → 7,986人（△250人）					
2 教育委員会人事管理費		23,052	8,787	31,839	教育委員会事務局の指導主事の欠員状況に対応するため、会計年度任用職員を配置					
学校企画課		6,381,158	1,030,098	7,411,256	5,036					1,025,062
1 教職員総務費（小学校）		386,376	485,928	872,304	教員の欠員状況に対応するため、教員の負担軽減を図る非常勤講師を配置					
2 教職員総務費（中学校）		266,733	222,853	489,586						
3 教職員総務費（高等学校）		293,534	50,260	343,794						
4 地域人材を活用した指導力等向上事業費		898,073	257,664	1,155,737	教員の欠員状況に対応するため、教員の負担軽減を図る校務支援員を配置					
5 学校管理運営費（全日制高等学校）		1,587,520	12,982	1,600,502	例年より早く梅雨明けした影響などにより、児童生徒等の健康管理に必要なエアコン等が例年を上回るペースで稼働している状況を受け、県立学校における年間の電気代予算を増額					
6 学校管理運営費（定時制高等学校）		40,024	396	40,420						
7 学校管理運営費（通信制高等学校）		7,176	15	7,191						

課名 事業名	補正前の額	補正額	補正後の額	補正額の財源内訳及び概要					
				国庫	使・手	寄・分	県債	その他	一般財源
特別支援教育課	1,570,289	12,353	1,582,642						12,353
1 学校管理運営費（特別支援学校）	833,595	2,237 ----- 798	836,630	例年より早く梅雨明けした影響などにより、児童生徒等の健康管理に必要なエアコン等が例年を上回るペースで稼働している状況を受け、県立学校における年間の電気代予算を増額 【別紙】 特別支援学校に通う児童生徒等の通学手段を維持するため、福祉有償運送事業者に対して、児童生徒等が乗車していない区間の運行経費の一部を支援					
2 全国障害者スポーツ大会に向けた特別支援学校スポーツ推進事業費	7,512	9,318	16,830	今年7月に全スポ開催地として島根県が内定したことを受け、特別支援学校にスポーツ用具を整備するとともに、障がいに対する理解促進を図るため、小中学校や公民館等へ貸し出すためのスポーツ用具を教育事務所に配備					
社会教育課	831,639	9,276	840,915			9,276			
1 子どもの主体的な活動のための環境整備促進事業費	0	9,276	9,276	一般財団法人からの寄附を活用し、青少年の体験活動や子どもの読書活動等の充実を図るため、社会教育施設の備品等を購入					
文化財課	1,382,697	5,549	1,388,246						5,549
1 風土記の丘事業費	74,486	830	75,316	物価高騰の状況や労務単価の上昇を踏まえ、公共サービスの水準を確保するため、指定管理施設における指定管理料を増額 [対象施設] R6年度中に指定管理料の更新又は見直しを行っていない施設：八雲立つ風土記の丘、古代出雲歴史博物館 [対象経費] 施設維持管理費 [加算内容] 対象施設の指定管理料に対して公募額（施設維持管理費）の4%相当額を加算					
2 古代出雲歴史博物館管理運営事業費	690,700	4,719	695,419						

福祉有償運送事業者への緊急支援事業

1 現状

- ・ 特別支援学校に通う児童生徒等の通学方法：別図「特別支援学校への通学方法」の「交通手段」ア～カのとおり。ア～エの方法で通学が困難な場合に、福祉タクシー及び福祉有償運送による通学についても就学奨励費の対象（※）として認めており、利用者がある。
 - ・ 福祉タクシー及び福祉有償運送を含めた通学体制を維持する必要がある。
- ※ 特別支援学校への就学のために保護者等が負担する経費の一部を保護者の負担能力の程度に応じて支給する国制度。通学支援については、児童生徒等が乗車している区間に限って支給

2 課題

- ・ 福祉有償運送は、いわゆる一般のタクシーや、福祉タクシーといった一般旅客運送と比較して運送区域に制限があったり、営利とは認められない範囲の対価によって運送を行うため、元々収益を生みづらく、経営状況は厳しくなる。
- ・ 特別支援学校は設置数が限られているため、遠距離の送迎となることがあり、この場合、無収入となる空車運行が長距離にわたって発生
- ・ 事業者は運賃の見直し、障害福祉サービス事業等との組み合わせにより運営を維持しているが、運賃改定は地域公共交通会議において認められる必要があり、改定に時間を要する。新たに他事業を開始した場合も、経営基盤強化策の成果が出るには一定期間を要する。

3 事業内容

(1) 事業内容

特別支援学校に通う児童生徒等の通学手段を維持するため、福祉有償運送により送迎を行う事業者に対して県単独補助を行う。 補助率：1/2 事業期間：令和9年度まで

(2) 補助対象者

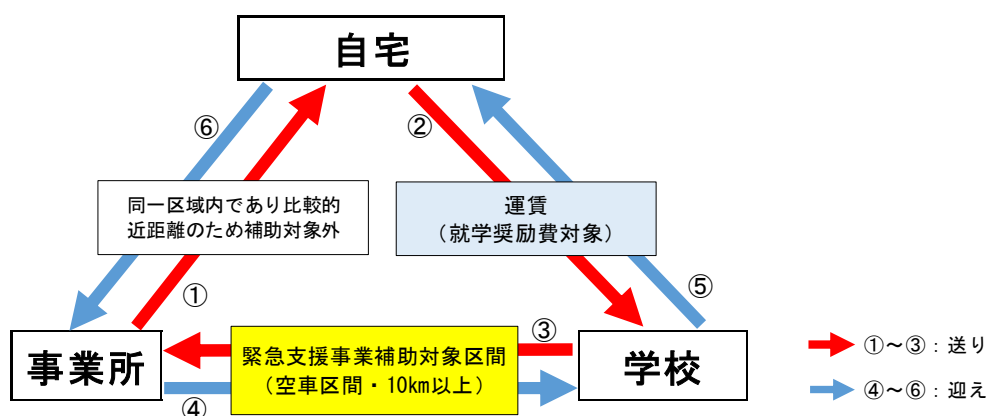
前年度における、法人全体の事業収支及び福祉有償運送における特別支援学校通学支援の事業収支のいずれもが赤字の事業者

(3) 補助対象経費等

事業所と学校の距離が遠距離（10 km以上）の場合に、児童生徒が乗車していない事業所と学校の距離に係る運行経費

（算定） $\frac{\text{支援対象単価}(\text{※a}) \times \text{空車区間}(\text{km})(b)}{\text{燃費}(14 \text{ km}/\ell)} \times \text{稼働台数}(c) \times \text{補助率}$

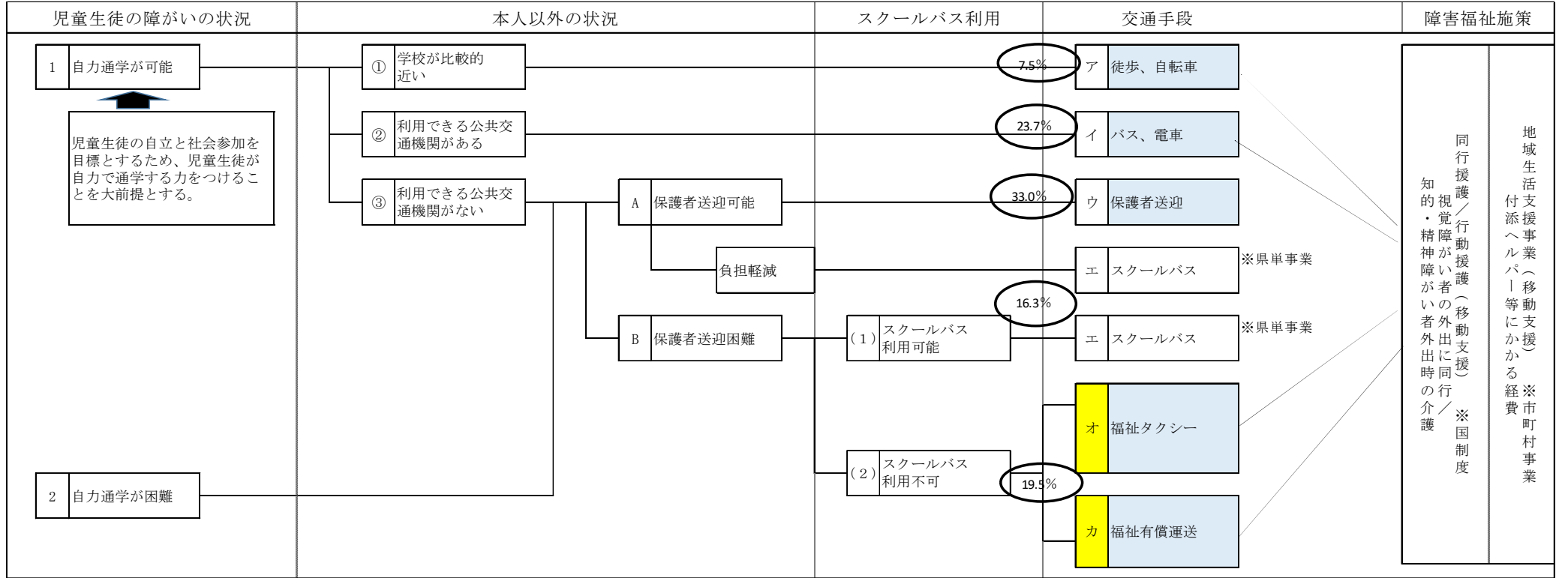
※(a) ガソリン店頭価格。予算成立時の店頭価格で執行



4 事業費

798 千円（全額一般財源）

特別支援学校への通学方法



福祉タクシー（一般旅客運送）と福祉有償運送の違い

種類	許可・登録の別	業務の範囲	料金設定	自動車の仕様	運転手に必要な免許	運送区域
福祉タクシー（一般旅客運送）	運輸支局による認可	介護認定を受けている者、身体障害者手帳の交付を受けている者、その他障がいにより単独での移動が困難な者	運輸支局で定められた範囲内	- 福祉自動車（車いす等のためのリフト、スロープ、寝台等特殊な設備等） - 介護福祉士等の資格を有している者が乗務する一般車輛	2種免許（ただし、福祉自動車に乗車する場合は、福祉タクシー乗務員研修を受けた者、介護福祉士等の資格を有していること）	- 県単位 - 経済事情等に鑑み隣県の隣接する市町村も含む
福祉有償運送	運輸支局等の登録（地域公共交通会議）	介助なしでは移動することが困難で、身体障がい等の移動制約者	営利を目的としていないと認められない妥当な範囲内（当該地域に適用されるタクシー運賃の約8割）	法人が所有する自家用自動車あるいは、個人持ち込みの自動車等	2種免許または1種免許を所持し、国土交通大臣が認定数講習を修了していること	運送を必要とする者の居住地及び目的等に照らし、合理的な範囲の市町村（地域公共交通会議等の協議が整った区域で、旅客の発地または着地のいずれかが運送の区域にあること）

3 債務負担行為

(単位：千円)

No.	事 項	期 間	限度額	課名
1	高等学校入学者選抜事業費	令和7年度～令和8年度	9,718	学校教育課

障がい者雇用の状況について

1 制度概要

障害者の雇用の促進等に関する法律第38条第1項の規定に基づき、国及び地方公共団体の任命権者には一定数以上の障がい者雇用を義務付け

2 教育委員会における障がい者雇用率の状況（令和7年6月分・島根労働局報告数値）

	法定雇用障がい者数の算定の基礎となる職員数（人）	障がい者の数（人）	実雇用率（％）	不足数（人）	法定雇用率（％）
R元年度	5,730.5	144.5	2.52	—	2.40
R2年度	6,607.0	155.5	2.35	2.5	2.40
R3年度	6,618.0	158.0	2.39	7.0	2.50
R4年度	6,612.0	162.0	2.45	3.0	2.50
R5年度	6,618.5	164.0	2.48	1.0	2.50
R6年度	6,681.5	168.0	2.51	12.0	2.70
R7年度	7,526.0	187.0	2.48	16.0	2.70
増減(R7-R6)	+844.5	(※) +19.0	△0.03	+4.0	—

- ・ 職員数等は障がいの程度や勤務時間に基づく換算により算出することとされているため、実人数とは異なる
- ・ 毎年6月1日現在の状況を国に報告
- ・ 法定雇用率は令和6年4月1日付けで2.50%から2.70%に引上げ
- ・ 令和7年4月の除外率引下げ（25%→15%）に伴い算定の基礎となる職員数が増加したことにより、障がい者の数は増加したものの実雇用率は減少

(※) 主な変動理由（令和6年6月以降）

- ・ 正規職員：他任命権者からの異動、新たな申告等により9人分増（実人数：3人増）
- ・ 非正規職員：ワークセンタースタッフの採用等により10人分増（実人数：11人増）

3 採用試験の実施状況

令和7年5月以降 障がい者を対象とした公立学校教員採用試験の実施

11月上旬 障がい者を対象とした市町村立学校（小・中・義務教育学校）事務職員採用試験の実施

随時 ワークセンター支援員及び障がい者を対象とした会計年度任用職員（ワークセンター勤務）の募集

4 今後の取組等

- ・ 教員採用試験における障がい者枠の設定、障がい者を対象とした市町村立学校事務職員の採用試験等の実施により、引き続き障がいのある正規教職員の任用を進めていく。
- ・ 障がいのある教職員が働きやすく、やりがいを感じることでできる職場づくりや、ワークセンター支援員の確保と資質向上による支援体制の充実を図るとともに、ワークセンターの規模拡大についても検討し、障がいのある教職員の任用をより積極的に進めていく。
- ・ 知事部局と連携し、障がいのある職員に担ってもらふ職務の選定・創出、作業の集約化、支援事例の共有などを図っていく。

令和8年度県立高等学校の入学定員について

1 定員設定の方針

- 令和8年3月の県内中学校卒業予定者（義務教育学校を含む。以下同じ。）は、令和7年3月と比べて県全体で40名減少すると見込まれる。
- 各地域の中学校卒業予定者数の増減や近年の定員充足状況等を踏まえ、県立高校の全日制課程において80名の定員減とする。

区 分		令和7年度	令和8年度	増 減
全日制	学級数	126	124	△2
	入学定員	4,923	4,843	△80
定時制	学級数	9	9	±0
	入学定員	360	360	±0
通信制	学校数	2	2	±0
	入学定員	400	400	±0
専攻科	学級数	2	2	±0
	入学定員	20	20	±0

2 入学定員の増減がある高校

課 程	学 校 名	概 要	入学定員・学級数（増減）	備 考
全日制	松江北高校	普通科1学級減 ※理数科は増減なし	入学定員 280→240（△40） 学級数 7→6（△1）	令和8年3月の 松江市の中学校 卒業予定者数は、 前年と比べ89名 の大幅な減 （別紙参照）
	松江南高校	探究科学科1学級減 ※普通科は増減なし	入学定員 280→240（△40） 学級数 7→6（△1）	

3 学科改編等を行う高校

該当校なし

4 令和8年度県立高等学校入学定員

全 日 制 課 程											
学校名	学 科	学級数	入学定員	1学級人数	備 考	学校名	学 科	学級数	入学定員	1学級人数	備 考
安 来	普 通	4	160	40			普 通	5	200	40	
情報科学	情報処理	1	120	40		大 社	体 育	1	40	40	
	マルチメディア	1		40							
	情報システム	1		40							
	計	3	120			大 田	普 通	3	120	40	
松 江 北	普 通	5	200	40	普通科1学級減		理 数	1	40	40	
	理 数	1	40	40			計	4	160		
	計	6	240			邇 摩	総合学科	3	120	40	
						島根中央	普 通	3	105	35	
松 江 南	普 通	5	200	40	探究科学科1学級減	矢 上	普 通	2	72	36	
	探究科学	1	40	40			産業技術	1	36	36	
	計	6	240				計	3	108		
松 江 東	普 通	5	200	40		江 津	普 通	2	80	40	
松江工業	機 械	1	40	40		江津工業	機械・ロボット	1	40	40	
	電子機械	1	40	40			建築・電気	1	40	40	
	電気電子工学	1	40	40			計	2	80		
	情報クリエイター学	1	40	40		浜 田	普 通	4	160	40	
	建築都市工学	1	40	40			理 数	1	40	40	
	計	5	200				計	5	200		
松江商業	商 業	3	200	40		浜田商業	商 業	1	80	40	
	国際ビジネス	1		40			情報処理	1		40	
	情報処理	1		40			計	2	80		
	計	5	200			浜田水産	海洋技術	1	40	40	
松江農林	生物生産	1	40	40	食品流通		1	40	40		
	環境土木	1	40	40			計	2	80		
	総合学科	2	80	40		益 田	普 通	3	120	40	
	計	4	160		理 数		1	40	40		
大 東	普 通	3	90	30	計		4	160			
横 田	普 通	3	90	30		益田翔陽	電子機械	1	40	40	
三 刀 屋	総合学科	4	160	40			電 気	1	40	40	
	掛合	普 通	1	40			40	生物環境工学	1	40	
飯 南	普 通	2	80	40			総合学科	1	40	40	
平 田	普 通	4	160	40		計	4	160			
出 雲	普 通	6	240	40		吉 賀	普 通	1	40	40	
	理 数	1	40	40		津 和 野	未来共創	2	80	40	
	計	7	280			隠 岐	普 通	2	60	30	
出雲工業	機 械	1	40	40			商 業	1	30	30	
	電 気	1	40	40			計	3	90		
	電子機械	1	40	40		隠岐島前	普 通	1	80	40	
	建 築	1	40	40	地域共創		1	40			
	計	4	160		計		2	80			
出雲商業	商 業	3	120	40		隠岐水産	海洋システム	1	40	40	
	情報処理	1	40	40			海洋生産	1	40	40	
	計	4	160				計	2	80		
出雲農林	植物科学	1	40	40		合 計		124	4,843		
	環境科学	1	40	40							
	食品科学	1	40	40							
	動物科学	1	40	40							
	計	4	160								

定 時 制 課 程					
学校名	学科(部)	学級数	入学定員	1学級人数	備 考
松江工業	機 械	1	40	40	夜間部
	電 気	1	40	40	
	建 築	1	40	40	
	計	3	120		
宍 道	普通(午前部)	2	80	40	昼夜間三部
	普通(午後部)	1	40	40	
	普通(夜間部)	1	40	40	
	計	4	160		
浜 田	普通(昼間部)	1	40	40	昼夜間二部
	普通(夜間部)	1	40	40	
	計	2	80		
合 計		9	360		

通 信 制 課 程			
学校名	学 科	入学定員	備 考
宍 道	普 通	300	後期入学を含む
浜 田	普 通	100	後期入学を含む
合 計		400	

専 攻 科					
学校名	学 科	学級数	入学定員	1学級人数	備 考
浜田水産	漁業・機関	1	10	10	
隠岐水産	漁業・機関	1	10	10	
合 計		2	20		

【参考1】 令和8年度松江市立高等学校入学定員

全 日 制 課 程					
学校名	学 科	学級数	入学定員	1学級人数	備 考
松江市立 皆美が丘女子	普 通	3	90	30	学科再編
合 計		3	90		

【参考2】 令和8年度私立高等学校募集定員

全 日 制 課 程		
学校名	学 科	募集定員(前年比)
開 星	普 通	270
	計	270
立正大学淞南	普 通	130
	計	130
松徳学院	普 通	150
	計	150
松江西	普通	80 (△20)
	計	80
出雲北陵	普 通	178
	計	178
出雲西	普 通	178
	計	178
石見智翠館	普 通	200
	計	200
キリスト教愛真	普 通	28
	計	28
明 誠	普 通	160
	福 祉	40
	計	200
益田東	普 通	200
	計	200
合 計		1,614 (△20)

通 信 制 課 程		
学校名	学 科	募集定員(前年比)
立正大淞南	普 通	80
	計	80
明 誠	普 通	420 (+120)
	計	420 (+120)
合 計		500 (+120)

市郡別中学校等在籍者数(R7. 5. 1現在)

別紙

R5.3～R7.3は中学校等卒業者実数

	高 3	高 2	高 1	中 3	中 2	中 1
中学校卒業年	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3	R9.3	R10.3
安来市	324	305	313	325	280	293
前年差	△ 6	△ 19	8	12	△ 45	13
松江市	1,890	1,816	1,886	1,797	1,839	1,810
前年差	33	△ 74	70	△ 89	42	△ 29
雲南市	313	302	311	269	304	273
前年差	△ 5	△ 11	9	△ 42	35	△ 31
飯石郡飯南町	34	41	28	35	36	27
前年差	△ 15	7	△ 13	7	1	△ 9
仁多郡奥出雲町	91	92	82	84	78	81
前年差	△ 2	1	△ 10	2	△ 6	3
出雲市	1,621	1,620	1,552	1,661	1,624	1,621
前年差	△ 89	△ 1	△ 68	109	△ 37	△ 3
大田市	276	254	262	263	266	251
前年差	△ 9	△ 22	8	1	3	△ 15
邑智郡	138	151	125	144	124	133
前年差	7	13	△ 26	19	△ 20	9
川本町	17	22	17	19	23	19
美郷町	44	33	37	43	29	34
邑南町	77	96	71	82	72	80
江津市	180	143	166	146	171	160
前年差	△ 10	△ 37	23	△ 20	25	△ 11
浜田市	410	408	397	423	399	369
前年差	△ 3	△ 2	△ 11	26	△ 24	△ 30
益田市	396	394	403	362	391	392
前年差	△ 21	△ 2	9	△ 41	29	1
鹿足郡	95	90	77	72	70	83
前年差	21	△ 5	△ 13	△ 5	△ 2	13
津和野町	53	38	49	43	38	49
吉賀町	42	52	28	29	32	34
隠岐の島町	106	105	108	99	97	114
前年差	5	△ 1	3	△ 9	△ 2	17
島前3町村	44	36	39	29	48	31
前年差	12	△ 8	3	△ 10	19	△ 17
県内合計	5,918	5,757	5,749	5,709	5,727	5,638
前年差	△ 82	△ 161	△ 8	△ 40	18	△ 89

教職員の働き方改革の進捗状況について

1 概要

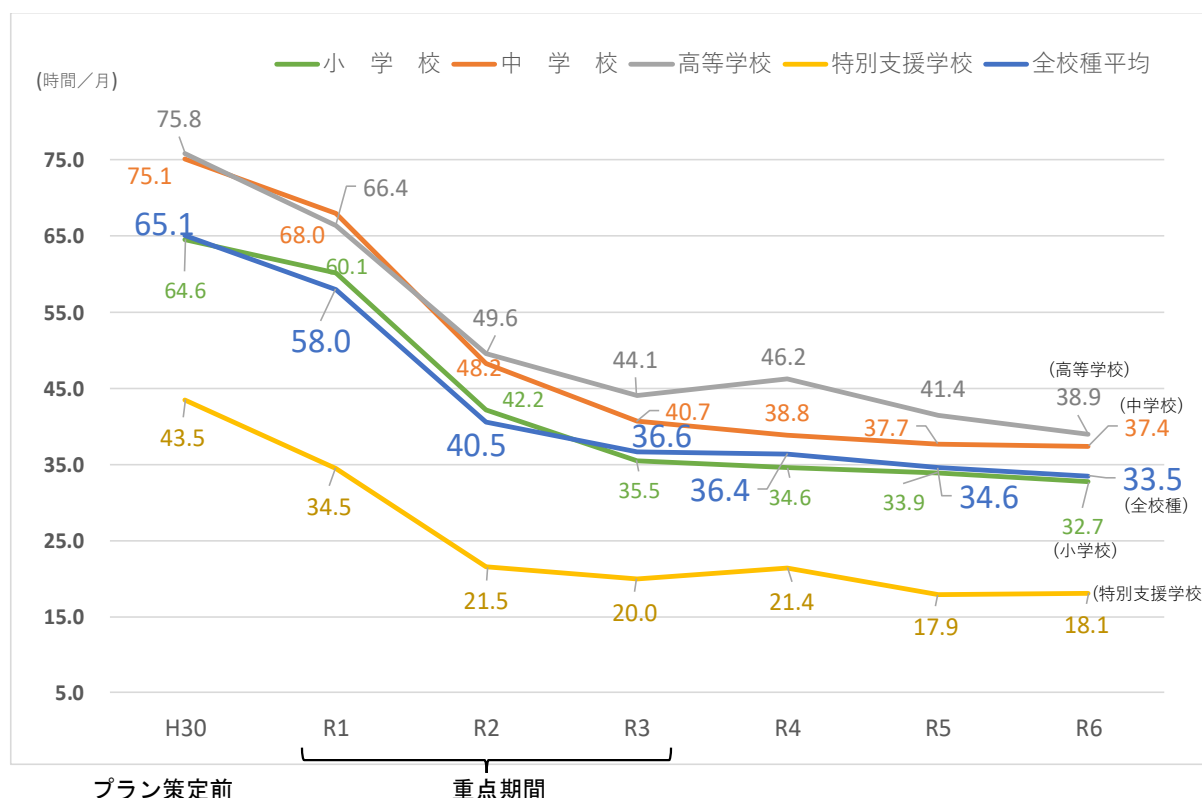
- ・ 教職員の長時間勤務の是正及びワーク・ライフ・バランスの適正化による教育の質の向上等を図るため、「教職員の働き方改革プラン」（平成31年3月）を策定し、具体的取組を推進
- ・ 同プランでは、教職員※の時間外勤務（平日・休日）に係る数値目標を、全校種で月45時間以内、年360時間以内としており、以下これまでの進捗と令和6年度の状況を報告（※ 県立学校については教育職員のみ、市町村立学校については教育職員、学校事務職員及び学校栄養士をいう。）

2 時間外勤務の状況

(1) 総論

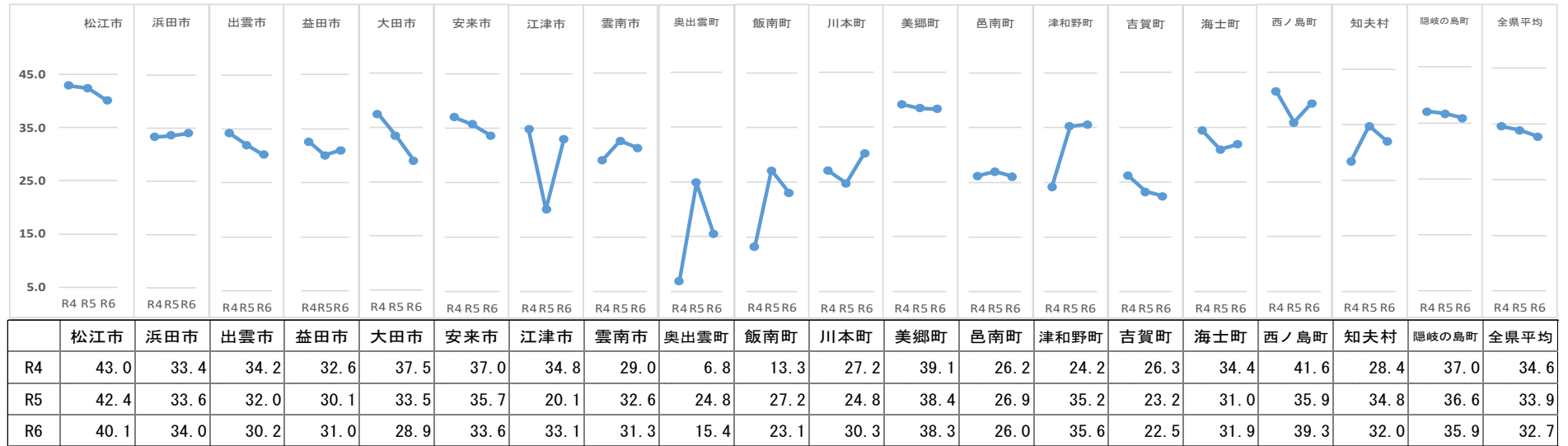
- ・ 重点期間（令和元～3年度）の取組成果として、全校種平均でプラン策定前の平成30年度の月65.1時間から、令和3年度には月36.6時間まで減少（H30比43.8%減）し、全校種で月45時間以内を達成
- ・ 令和4年度には新型コロナウイルス感染症対策の影響もあり、高等学校及び特別支援学校で一時的に増加したものの、令和6年度には全校種平均で月33.5時間まで減少（H30比48.5%減）
- ・ ただし、近年減少幅は鈍化傾向にあり、年360時間以内とする目標は特別支援学校を除き未達成

（注）H30～R2年度は抽出調査。各年度の数値は、小数点第2位を四捨五入（以下同様）

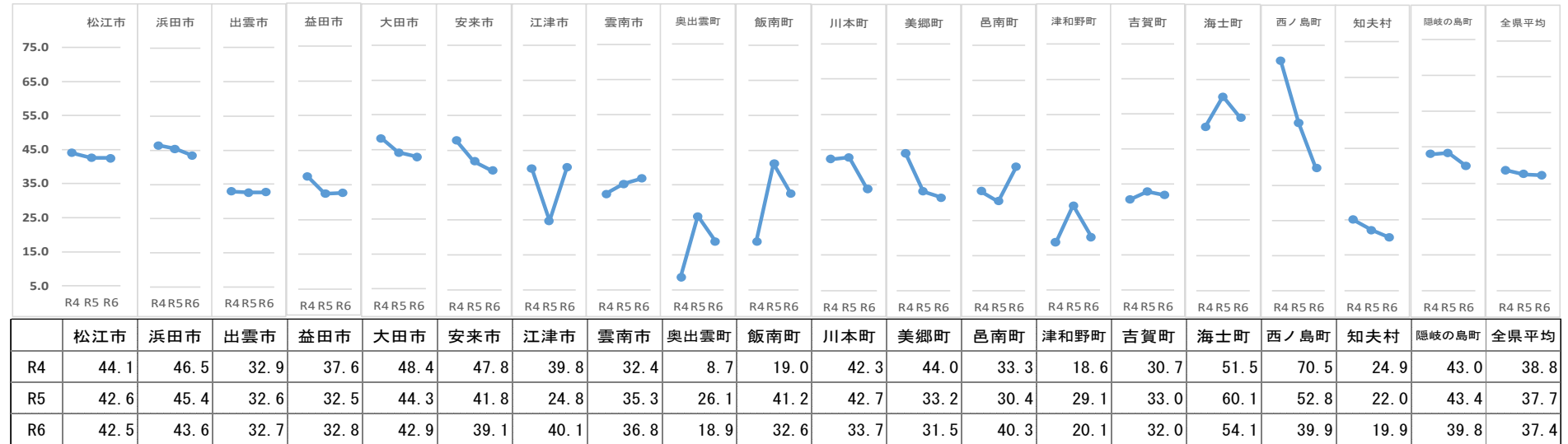


(2) 小学校、中学校・義務教育学校（単位：時間/月）

小学校

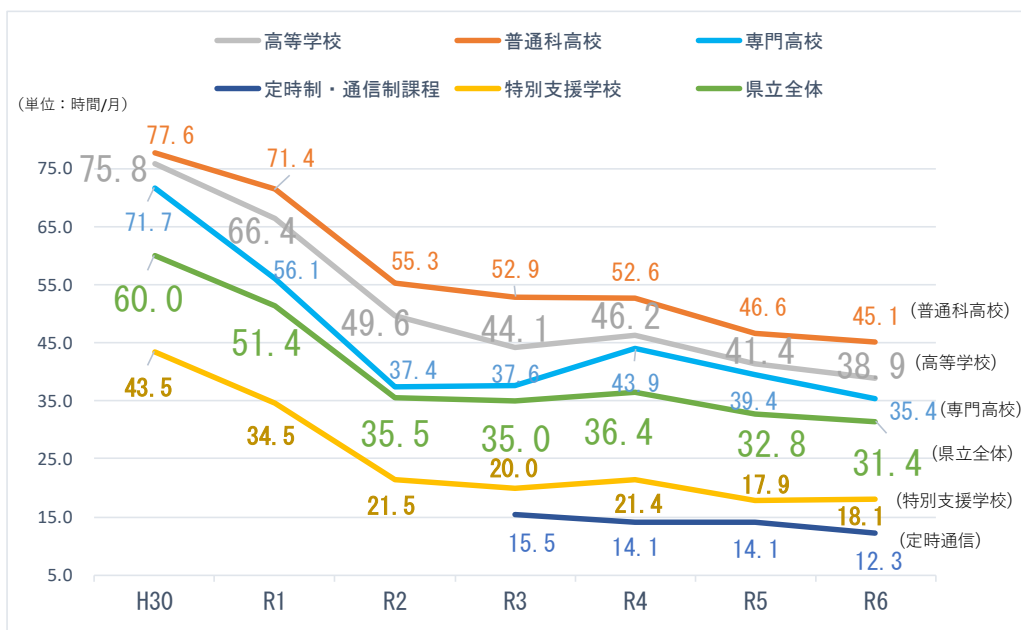


中学校・義務教育学校



(3) 県立学校

校種	校数
高等学校	38
普通科高校	22
専門高校	13
定時通信制	3
特別支援学校	12
計	50



3 働き方改革に向けた今後の取組（主なもの）

(1) 業務量管理・健康確保措置実施計画の策定等

公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律が令和8年4月1日（一部の規定は交付日又は令和8年1月1日）から施行されることにより、次のことが義務付けられた。

① 教育委員会における実施の確保のための措置

- ・ 教員の業務量の適切な管理と健康・福祉を確保するための措置（業務量管理・健康確保措置）を実施するための計画（業務量管理・健康確保措置実施計画）の策定・公表、計画の実施状況の公表
- ・ 計画の内容及び実施状況について、総合教育会議への報告
- ・ 計画の策定・実施に関して、市町村教育委員会への指導助言等が努力義務

② 学校における実施の確保のための措置

- ・ 学校評価の結果に基づき講ずる学校運営の改善を図るための措置が、計画に適合するものとなること
- ・ 校長が学校運営協議会の承認を得ることとなっている学校運営に関する「基本的な方針」に、業務量管理・健康確保措置の実施に関する内容を含めること

【今後のスケジュール】

月	6月	9月	10月～	R 8. 2月	4月
文部科学省	公布	指針公表			
県教委		計画策定		総合教育 会議報告	
市町村教委			県より 計画通知	計画策定	実施
県立学校				基本的な方針策定	

(2) 学校が担う業務等の削減・効率化

- ・ 学校内での働き方改革の更なる推進
年間指定から、伴走支援型・コーディネーター養成型へ
- ・ 教育委員会による調査・照会等の削減・簡素化、儀礼的札状等の廃止 など
負担軽減プロジェクト庁内ワーキングチーム
- ・ 教育委員会からの配付文書の削減・手段の検討

(3) 教員が担わなくてよい業務・教員以外が担うべき業務のアウトソーシング

- ・ 各種外部サポート人材、専門人材を適切に配置
スクール・サポート・スタッフ、学校アシスタント、学習指導員、教頭マネジメント支援員、部活動指導員等、スクールロイヤー、教員サポーター
- ・ 業務委託の推進
高校寄宿舍外部舎監等

(4) 業務の平準化及び多様な働き方の推進

- ・ 業務の平準化に関する好事例の収集・展開
- ・ 管理職に対する研修の更なる充実
- ・ 多様な働き方に向けたモデル校での研究
令和6年度 時差出勤勤務（令和7年度から導入）
令和7年度 江津市教育委員会（デジタル化とオープンオフィス化）、
松江商業高校（校務タスク管理共同化）、
江津清和養護学校（在宅勤務と働きがい向上、ICT活用）

※ 市町村立学校については、学校設置者であり教職員の服務監督権限を有する市町村教育委員会とも協調して取組を推進

令和8年度島根県公立高等学校入学者選抜について

1 各学校の選抜実施方法等

(1) 特色入学者選抜

① 総合入学者選抜、スポーツ推進指定校入学者選抜

別表1のとおり

② 中高一貫校（連携型）に係る入学者選抜

学校名	学科等	募集人員	選抜方法
飯南	普通科	入学定員内とし、特に定めない	書類審査、面接、作文
吉賀	普通科	20名	書類審査、面接、作文

(2) 一般選抜、第2次募集

別表2のとおり

2 昨年度からの変更点

(1) 特色入学者選抜

① 総合入学者選抜について（別表1参照）

- 募集人員（入学定員に対する％）に変更がある学校・学科

学校名	学 科	変更前	変更後
横田	普通科	30％程度	40％程度
飯南	普通科	25％程度	30％程度
大田	全学科	15％程度	20％程度
浜田商業	全学科（くくり募集）	35％程度	40％程度
松江市立皆美が丘女子	普通科	30％程度	40％程度

- 選抜方法に変更がある学校

学校名	学科等	変更前	変更後
松江東	普通科 〔部活動重視型〕	書類審査、面接、 <u>作文</u>	書類審査、面接、 <u>学力検査</u>
松江工業	情報クリエイター学科	書類審査、面接、 <u>作文</u>	書類審査、面接、 <u>プレゼンテーション</u>
松江農林	総合学科	書類審査、面接、 <u>プレゼンテーション</u>	書類審査、面接、 <u>学力検査</u>
飯南	普通科	書類審査、面接、 <u>作文</u>	書類審査、面接、 <u>学力検査</u>
出雲商業	全学科〔学業〕 〔部活動等〕	書類審査、面接、 <u>プレゼンテーション</u> 書類審査、面接、 <u>プレゼンテーション</u>	書類審査、面接、 <u>学力検査</u> 書類審査、面接、 <u>作文</u>
島根中央	普通	書類審査、面接、 <u>プレゼンテーション</u> 学力検査	書類審査、面接、 <u>学力検査</u>
浜田商業	全学科 （くくり募集）	書類審査、面接、 <u>作文</u> <u>プレゼンテーション</u>	書類審査、面接、 <u>学力検査</u> <u>プレゼンテーション</u>
隠岐水産	全学科	書類審査、面接、 <u>作文</u>	書類審査、面接、 <u>学力検査</u>
松江市立 皆美が丘女子	普通	書類審査、面接、 <u>作文</u>	書類審査、面接、 <u>学力検査</u>

- 出願の要件に変更がある学校

学校名	学 科	変更内容	選抜方法
安来	普通	[生徒会・探究活動・地域活動等] の型を廃止し [やすぎ追求型] を追加	[やすぎ追求型] 書類審査、面接、プレゼンテーション、学力検査
松江商業	全学科 (くくり募集)	[デジタル人材] の型を追加	[デジタル人材] 書類審査、面接、作文
松江農林	全学科	[学業] の型を廃止	
矢上	全学科	[部活動]、[生徒会活動] の型を廃止し [課外活動]、[探究活動・特別活動等] の型を追加	[課外活動] [探究活動・特別活動等] 書類審査、面接、学力検査
江津工業	全学科	[D X等] の型を追加	[D X等] 書類審査、面接、作文
益田翔陽	全学科	型を分けて要件を設定	[学習区分] [部活動区分] [地域創生区分] } 書類審査、面接、学力検査
津和野	未来共創	[社会活動] の型を [社会活動または情報活用] に変更	[社会活動または情報活用] 書類審査、面接、作文

② スポーツ推進指定校入学者選抜について (別表 1 参照)

- 指定から外れる競技及び学校

競技名	学校名
男子フェンシング	松江工業

(2) 一般選抜について (別表 2 参照)

- 選抜方法について昨年度から変更がある学校

学校名	学 科	変更前	変更後
津和野	未来共創	個人調査報告書：学力検査 (40:60)	個人調査報告書：学力検査 (50:50)

(3) 第 2 次募集について (別表 2 参照)

- 選抜方法及び配点について昨年度からの変更がある学校

学校名	学 科	変更前	変更後
津和野	未来共創	書類40、一般選抜学力検査60、面接10	書類50、一般選抜学力検査50、面接10

(4) 長期欠席者等に配慮した選抜方式

- 一般選抜及び第 2 次募集において長期欠席者等に配慮した選抜方式を導入

3 今後の予定

8 月下旬	インターネット出願志願者向け操作マニュアル (通常申込み) を発行
10 月上旬	各学校における県外受検生の合格者数上限を公表
	インターネット出願説明会 (高校対象)、運用テスト
10 月下旬	選抜の詳細を定めた実施要綱を公表
	インターネット出願説明会 (中学校対象)、運用テスト
11 月上旬	各学校の募集要項を公表
1 月下旬	総合選抜・中高一貫特別選抜・スポーツ特別選抜
1 月 29 日 (木)	総合選抜・中高一貫特別選抜・スポーツ特別選抜合格内定通知
3 月 4 日 (水)	一般選抜学力検査 (国、数、社、英、理)
3 月 5 日 (木)	一般選抜面接等
3 月 10 日 (火)	追検査
3 月 13 日 (金)	一般選抜等合格発表・第 2 次募集実施校公表
3 月 19 日 (木)	第 2 次募集作文・面接等
3 月 24 日 (火)	第 2 次募集合格発表

【別表 1】

令和 8 年度島根県公立高等学校入学者選抜における総合選抜・スポーツ特別選抜での募集人員・選抜方法等について

番号	学校名	入学定員	学科名	総合選抜			スポーツ特別選抜		
				実施学科	募集人員 (入学定員に 対する%)	選抜方法	指定競技	募集 人員	選抜方法
1	安来高等学校	* 160	普通科	普通科	40%	〔学業〕〔部活動等〕書類審査、面接、学力検査 〔やすぎ追求型〕 書類審査、面接、プレゼンテーション、学力検査	男女バレーボール 男女フェンシング	12	書類審査、面接、プレゼンテーション
2	情報科学高等学校	* 120	くくり募集（情報処理科、マルチメディア科、情報システム科）	全学科	40%	〔学業〕〔活動〕〔専門〕書類審査、面接、作文 〔未来探究〕書類審査、面接、作文、プレゼンテーション	—	—	—
3	松江北高等学校	240	理数科、普通科	理数科 普通科	10% 10%	書類審査、面接、小論文、プレゼンテーション 書類審査、面接、小論文	—	—	—
4	松江南高等学校	240	探究科学科、普通科	探究科学科 普通科	40% 16%	書類審査、面接、学力検査	女子ソフトテニス	4	書類審査、面接、学力検査
5	松江東高等学校	200	普通科	普通科	40%	〔学力重視型〕書類審査、面接、学力検査 〔部活動重視型〕書類審査、面接、学力検査 〔チャレンジ型〕書類審査、面接、学力検査	男子バスケボール 男女アーチェリー 男女ローイング（ボート）	12	書類審査、面接、作文
6	松江工業高等学校	200	機械科、電子機械科、電気電子工学科、情報クリエイター学科、建築都市工学科	全学科	40%	〔学業〕〔特技〕 機械科、電子機械科、電気電子工学科：書類審査、面接、作文 情報クリエイター学科、建築都市工学科：書類審査、面接、プレゼンテーション	男子バレーボール 男子レスリング 男子ソフトテニス	12	機械科、電子機械科、電気電子工学科： 書類審査、面接、作文 情報クリエイター学科、建築都市工学科： 書類審査、面接、プレゼンテーション
7	松江商業高等学校	200	くくり募集（商業科、情報処理科、国際ビジネス科）	全学科	40%	〔学力〕書類審査、面接、学力検査 〔部活動〕〔特別活動〕〔デジタル人材〕 書類審査、面接、作文	女子サッカー 女子バスケボール 女子バドミントン	12	書類審査、面接、作文
8	松江農林高等学校	160	生物生産科、環境土木科、総合学科	全学科	40%	〔専門〕〔部活動等〕 生物生産科、環境土木科：書類審査、面接、プレゼンテーション 総合学科：書類審査、面接、学力検査	—	—	—
9	大東高等学校	* 90	普通科	普通科	40%	書類審査、面接、学力検査	男子ビーチバレーボール	4	書類審査、面接、実技
10	横田高等学校	* 90	普通科	普通科	40%	〔学習区分〕書類審査、面接、学力検査 〔部活動等区分〕〔地域貢献活動区分〕書類審査、面接、プレゼンテーション	男女ホッケー	8	書類審査、面接、実技
11	三刀屋高等学校	* 160	総合学科	総合学科	40%	書類審査、面接（プレゼン含む）、学力検査	男女ソフトボール	8	書類審査、面接、実技
12	三刀屋高校・掛合分校	40	普通科	普通科	15%	書類審査、面接、ワークショップ	—	—	—
13	飯南高等学校	* 80	普通科	普通科	30%	書類審査、面接、学力検査	—	—	—
14	平田高等学校	160	普通科	普通科	40%	〔学業〕〔部活動等〕 書類審査、面接、学力検査	男女柔道	8	書類審査、面接、学力検査
15	出雲高等学校	280	理数科、普通科	全学科	40%	書類審査、面接、学力検査	男女弓道	8	書類審査、面接、学力検査
16	出雲工業高等学校	160	機械科、電気科、電子機械科、建築科	全学科	40%	〔学業〕〔部活動等〕 書類審査、面接、学力検査	男女自転車 男女アーチェリー	12	書類審査、面接、学力検査
17	出雲商業高等学校	160	商業科、情報処理科	全学科	40%	〔学業〕〔部活動等〕 〔部活動等〕書類審査、面接、作文 〔島根創生人材〕書類審査、面接、プレゼンテーション	—	—	—
18	出雲農林高等学校	160	植物科学科、環境科学科、食品科学科、動物科学科	全学科	40%	〔学業〕〔部活動等〕 書類審査、面接、学力検査	男女ウェイトリフティング 男女カヌー	12	書類審査、面接、学力検査
19	大社高等学校	240	普通科、体育科	全学科	普通科： 25% 体育科： 60%	〔学業〕〔部活動等〕書類審査、作文、学力検査 〔特別活動〕書類審査、面接、プレゼンテーション 体育科： 書類審査、面接、実技	男子サッカー 男女剣道 男女体操 男女陸上競技	12	書類審査、面接、実技
20	大田高等学校	* 160	理数科、普通科	全学科	20%	書類審査、面接、学力検査	—	—	—
21	遼摩高等学校	* 120	総合学科	総合学科	40%	書類審査、面接、作文	—	—	—
22	島根中央高等学校	* 105	普通科	普通科	40%	書類審査、面接、学力検査	男女カヌー	8	書類審査、面接、実技
23	矢上高等学校	* 108	普通科、産業技術科	全学科	40%	〔学業〕〔課外活動〕〔探究活動・特別活動等〕 書類審査、面接、学力検査	—	—	—
24	江津高等学校	* 80	普通科	普通科	40%	書類審査、面接、学力検査	男子水球 男女ハンドボール	12	書類審査、面接、作文、実技
25	江津工業高等学校	* 80	機械・ロボット科、建築・電気科	全学科	40%	〔学業〕〔DX等〕〔部活動等〕 書類審査、面接、作文	男子ローイング（ボート）	4	書類審査、面接、実技
26	浜田高等学校	* 200	理数科、普通科	全学科	40%	書類審査、面接、学力検査	男女体操	8	書類審査、面接、実技
27	浜田商業高等学校	* 80	くくり募集（商業科、情報処理科）	全学科	40%	〔学力〕〔部活動〕〔特別活動〕 書類審査、面接、プレゼンテーション	—	—	—
28	浜田水産高等学校	* 80	海洋技術科、食品流通科	全学科	40%	書類審査、面接、作文	—	—	—
29	益田高等学校	* 160	理数科、普通科	全学科	10%	書類審査、面接、学力検査	—	—	—
30	益田翔陽高等学校	* 160	電子機械科、電気科、生物環境工学科、総合学科	全学科	40%	〔学習区分〕〔部活動区分〕〔地域創生区分〕 書類審査、面接、学力検査 地域創生区分は生物環境工学科のみ	—	—	—
31	吉賀高等学校	* 40	普通科	普通科	40%	書類審査、面接、作文	—	—	—
32	津和野高等学校	* 80	未来共創科	未来共創科	40%	〔学業〕〔部活動等〕〔社会活動または情報活用〕 書類審査、面接、作文	—	—	—
33	隠岐高等学校	* 90	普通科、商業科	全学科	普通科： 40% 商業科： 20%	書類審査、面接、学力検査	—	—	—
34	隠岐島前高等学校	* 80	くくり募集（普通科、地域共創科）	全学科	35%	書類審査、面接、学力検査	男女レスリング	8	書類審査、面接、学力検査、実技
35	隠岐水産高等学校	* 80	海洋システム科、海洋生産科	全学科	40%	書類審査、面接、学力検査	男女ヨット 男子相撲	12	書類審査、面接、実技
36	松江市立皆美が丘女子高等学校	90	普通科	普通科	40%	書類審査、面接、学力検査	—	—	—
37	松江工業高校・定時制	120	機械科、電気科、建築科	—	—	—	—	—	—
38	穴道高校・定時制	160	普通科	—	—	—	—	—	—
39	浜田高校・定時制	80	普通科	—	—	—	—	—	—

*印は身元引受人による県外受験生の合格者数を入学定員内において4名を超えて決定することができる高等学校（22校）

【別表 2】

令和 8 年度島根県公立高等学校入学者選抜における一般選抜での個人調査報告書と学力検査の比率等及び第 2 次募集について

番号	学校名	入学 定員	学科名	一般選抜					第2次募集							
				実施 学科	個人調査報告書と学 力検査の比率	傾斜 配点	学力検査後の 面接等	実施 学科 (注)	選抜方法及び配点							
									書類 (個人調査 報告書等)	一般選抜 学力検査 の結果	基礎学力 をみるた めの検査	面接	作文	実技	合計	
1	安来高等学校	*	160	普通科	普通科	50 : 50	－	－	普通科	50	50	－	－	－	－	100
2	情報科学高等学校	*	120	くくり募集（情報処理科，マルチメディア科，情報システム科）	全学科	60 : 40	－	－	全学科	60	40	－	10	－	－	110
3	松江北高等学校		240	理数科，普通科	全学科	40 : 60	－	－	全学科	40	60	－	－	－	－	100
4	松江南高等学校		240	探究科学科，普通科	全学科	40 : 60	－	－	全学科	40	60	－	－	－	－	100
5	松江東高等学校		200	普通科	普通科	50 : 50	－	－	普通科	50	50	－	－	－	－	100
6	松江工業高等学校		200	機械科，電子機械科，電気電子工学科，情報クリエイター学科，建築都市工学科	全学科	60 : 40	－	面接	10点	全学科	60	40	－	10	－	110
7	松江商業高等学校		200	くくり募集（商業科，情報処理科，国際ビジネス科）	全学科	60 : 40	－	－	全学科	60	40	－	10	－	－	110
8	松江農林高等学校		160	生物生産科，環境土木科，総合学科	全学科	60 : 40	－	面接	10点	全学科	60	40	－	10	－	110
9	大東高等学校	*	90	普通科	普通科	50 : 50	－	－	普通科	50	50	－	－	－	－	100
10	横田高等学校	*	90	普通科	普通科	50 : 50	－	－	普通科	50	50	－	－	－	－	100
11	三刀屋高等学校	*	160	総合学科	総合学科	50 : 50	－	－	総合学科	40	50	－	10	－	－	100
12	三刀屋高校・掛合分校		40	普通科	普通科	60 : 40	－	面接	10点	普通科	60	40	－	10	－	110
13	飯南高等学校	*	80	普通科	普通科	60 : 40	－	面接	10点	普通科	60	40	－	10	－	110
14	平田高等学校		160	普通科	普通科	50 : 50	－	－	普通科	40	50	－	10	－	－	100
15	出雲高等学校		280	理数科，普通科	全学科	40 : 60	－	－	全学科	40	60	－	－	－	－	100
16	出雲工業高等学校		160	機械科，電気科，電子機械科，建築科	全学科	60 : 40	－	面接	10点	全学科	60	40	－	10	－	110
17	出雲商業高等学校		160	商業科，情報処理科	全学科	60 : 40	－	－	全学科	60	40	－	5	－	－	105
18	出雲農林高等学校		160	植物科学科，環境科学科，食品科学科，動物科学科	全学科	60 : 40	－	面接	10点	全学科	60	40	－	10	－	110
19	大社高等学校		240	普通科，体育科	全学科	普通科 50 : 50 体育科 70 : 30	－	体育科のみ 実技	普通科 10点	普通科 70 体育科 30	50 30	－ －	10 10	－ －	－ 40	110 150
20	大田高等学校	*	160	理数科，普通科	全学科	40 : 60	－	－	全学科	40	60	－	－	－	－	100
21	瀬摩高等学校	*	120	総合学科	総合学科	60 : 40	－	面接	10点	総合学科	60	40	－	10	－	110
22	島根中央高等学校	*	105	普通科	普通科	50 : 50	－	面接	10点	普通科	50	50	－	10	－	110
23	矢上高等学校	*	108	普通科，産業技術科	全学科	50 : 50	－	面接	10点	全学科	50	50	－	10	－	110
24	江津高等学校	*	80	普通科	普通科	40 : 60	－	－	普通科	40	60	－	10	－	－	110
25	江津工業高等学校	*	80	機械・ロボット科，建築・電気科	全学科	60 : 40	－	面接	10点	全学科	60	40	－	10	－	110
26	浜田高等学校	*	200	理数科，普通科	全学科	40 : 60	－	－	全学科	40	60	－	－	－	－	100
27	浜田商業高等学校	*	80	くくり募集（商業科，情報処理科）	全学科	60 : 40	－	面接	10点	全学科	60	40	－	10	－	110
28	浜田水産高等学校	*	80	海洋技術科，食品流通科	全学科	50 : 50	－	面接	5点	全学科	50	50	－	5	－	105
29	益田高等学校	*	160	理数科，普通科	全学科	40 : 60	－	－	全学科	40	60	－	－	－	－	100
30	益田翔陽高等学校	*	160	電子機械科，電気科，生物環境工学科，総合学科	全学科	60 : 40	－	面接	10点	全学科	60	40	－	10	－	110
31	吉賀高等学校	*	40	普通科	普通科	50 : 50	－	面接	10点	普通科	50	50	－	10	－	110
32	津和野高等学校	*	80	未来共創科	未来共創科	50 : 50	－	面接	10点	未来共創科	50	50	－	10	－	110
33	隠岐高等学校	*	90	普通科，商業科	全学科	50 : 50	－	－	全学科	50	50	－	10	－	－	110
34	隠岐島前高等学校	*	80	くくり募集（普通科，地域共創科）	全学科	50 : 50	－	－	全学科	50	20	－	30	－	－	100
35	隠岐水産高等学校	*	80	海洋システム科，海洋生産科	全学科	50 : 50	－	－	全学科	50	50	－	10	－	－	110
36	松江市立皆美が丘 女子高等学校		90	普通科	普通科	60 : 40	－	－	普通科	60	40	－	－	－	－	100
37	松江工業高校・定時制		120	機械科，電気科，建築科	全学科	60 : 40	－	面接	10点	全学科	60	40	－	10	－	110
38	宍道高校・定時制		160	普通科	普通科	50 : 50	－	面接	10点	普通科	40	40	－	10	10	100
39	浜田高校・定時制		80	普通科	普通科	60 : 40	－	面接	10点	普通科	30	20	－	30	20	100

*印は身元引受人による県外受験生の合格者数を入学定員内において 4 名を超えて決定することができる高等学校（22校）

（注）第 2 次募集については、令和 8 年 3 月 13 日（金）の公立高等学校入学者選抜の合格発表の時点で、欠員が生じた全日制課程及び定時制課程の学校・学科において行う。

令和8年3月高校卒業予定者の進路希望状況等について
(県立、市立及び私立の全日制並びに県立の定時制)

1 進路希望状況等

8月末日現在(単位:人)

年度	卒業 予定者	進学	就職			未定
			県内	県外	未定	
R 5	5,289	4,168 78.8%	—	—	—	18
R 6	5,425	4,287 79.0%	1,259 29.4%	2,978 69.5%	50 1.1%	18
R 7	5,371	4,234 78.8%	1,219 28.8%	2,986 70.5%	29 0.7%	22
対 R 5 増減	+82	+66	—	—	—	+4
対 R 6 増減	△ 54	△ 53	△ 40	+8	△ 21	+4

(参考: 令和6年度卒業生実績(令和7年3月末日現在))

(単位:人)

年度	卒業 者数	進学	就職			未定
			県内	県外	未定	
R 6	5,395	4,006 74.3%	1,196 29.9%	2,810 70.1%	1,090 20.2%	273
						進学 238 就職 35

(参考: 高校の求人受付企業数(8月末日現在、のべ数))(単位:社)

年度	県内企業	県外企業
R 5	5,590	11,787
R 6	6,041	15,183
R 7	8,268	21,905
対 R 5 増減	+2,678 +47.9%	+10,118 +85.8%
対 R 6 増減	+2,227 +36.9%	+6,722 +44.3%

2 進路希望・進路指導の傾向(各高校からの聞き取り)

(1) 進学希望

- ・ 年内入試での受験を希望する生徒が増える傾向にある。

(2) 就職希望

- ・ 多くの求人があり、生徒の選択肢が広がっている。
- ・ 県内県外に関わらず、賃金水準や福利厚生が充実している企業を希望する生徒が多く、大手企業に集中する傾向がある。
- ・ 生徒が希望する企業全てで応募前企業見学を実施済み。協力的な企業が多く、採用意欲の強さを感じる。

3 新規高等学校卒業者の就職に係るスケジュール

時 期	内 容
6 月 1 日以降	ハローワークにおける求人受理開始
7 月 1 日以降	各企業から学校への求人票送付開始
7 月上旬～8 月下旬	生徒・保護者への進路説明会、三者面談、応募前企業見学校内進路会議（生徒ごとに希望する 1 社を決定）、履歴書作成
9 月 5 日以降	学校から各企業へ推薦開始（企業へ履歴書等提出）
9 月 16 日以降	各企業における採用選考開始、採用内定の開始

【参考：島根労働局資料（7 月末日現在）】

新規高等学校卒業者の求人等の状況

- ・ 求人倍率：3.07 倍（前年同期 2.95 倍）
- ・ 7 月末時点の求人倍率としては、統計が残っている平成 7 年度以降、過去最高値

〈産業別〉

建設は、大卒や中途採用では応募者が少なく、慢性的に人手不足の状況であり、人材教育を行いやすい高卒者での採用を計画する企業があるほか、前年と比べ約 100 人増の求人を出した企業があり求人数が増加

（単位：人）

年 度		建設	製造	卸・小売	宿泊・飲食	生活関連・娯楽	医療・福祉	その他	計
R 5		754	911	262	219	45	243	633	3,067
R 6		766	957	275	157	44	208	649	3,056
R 7		917	907	311	147	43	197	610	3,132
	対R 5増減	+163	▲4	+49	▲72	▲2	▲46	▲23	+65
	対R 6増減	+151	▲50	+36	▲10	▲1	▲11	▲39	+76

〈地区別〉

松江地区は、上記記載の建設業の求人数の増加により、地区としても増加

（単位：人）

年 度		安来	松江	雲南	出雲	大田	川本	浜田	益田	隠岐	合計
R 5		159	1,077	176	823	95	82	330	283	42	3,067
R 6		182	1,123	177	818	88	78	274	271	45	3,056
R 7		167	1,205	177	833	87	67	290	257	49	3,132
	対 R 5 増減	+8	+128	+1	+10	▲8	▲15	▲40	▲26	+7	+65
	対 R 6 増減	▲15	+82	±0	+15	▲1	▲11	+16	▲14	+4	+76
	求人倍率	5.06	3.07	3.54	3.44	2.56	3.35	2.28	2.62	1.96	3.07

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

(1) 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。

ア 小学校調査

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

イ 中学校調査

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(2) 障がいのある児童生徒については、各学校の判断により、当該児童生徒の障がいの種類や程度に応じて、調査時間の延長、点字・拡大文字・ルビ振り問題の使用、代理解答、別室の設定などの配慮を可能とする。ただし、特別支援学校及び小・中学校等の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、以下の事由がある児童生徒については、原則として、当該事由に係る教科に関する調査の対象としない。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている場合

イ 知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている場合

(3) 日本語指導が必要な児童生徒については、各学校の判断により、調査時間の延長、ルビ振り問題の使用などの配慮を可能とする。ただし、例えば、国語、算数・数学及び理科の時間に日本語指導のための取り出し指導を受けているなどの事情がある場合は、当該教科を調査の対象としないことを可能とする。

3 調査実施日・方式・教科等

校 種	実 施 日	方 式	教科等
小学校	令和7年4月17日（木）	冊子を用いた 筆記方式	国語・算数・理科
	令和7年4月18日（金）～4月30日（水） のうち、指定された実施日	オンライン方式	児童質問調査
中学校	令和7年4月17日（木）	冊子を用いた 筆記方式	国語・数学
	令和7年4月14日（月）～4月17日（木） のうち、指定された実施日	MEXCBTを用いた オンライン方式	生徒質問調査・理科

4 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

(ア) 小学校調査は、国語、算数及び理科とし、中学校調査は、国語、数学及び理科とする。国語、算数・数学及び小学校理科は、冊子を用いた筆記方式（「PBT」＝Paper Based Testing）で実施する。中学校理科は、生徒が活用する ICT 端末等を用いた、文部科学省 CBT システム（「MEXCBT」）によるオンライン方式（「CBT」＝Computer Based Testing）で実施する。

(イ) 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(ウ) 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

イ 質問調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査（以下、児童を対象とする場合は「児童質問調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問調査」という。）を、児童生徒の活用する ICT 端末等を用いた CBT（生徒質問調査にあつては、MEXCBT による CBT）で実施する。

(2) 学校質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査（以下「学校質問調査」という。）をオンラインによる回答方式で実施する。

5 県内公立学校で調査を実施した学校数・児童生徒数

【小学校等】市町村立小学校 182 校、義務教育学校前期課程 2 校及び県立特別支援学校小学部 2 校

小学校調査	実施予定学校数	実施学校数（実施率）	実施児童数
公立学校合計	188	186（99％）	5,234 人

【中学校等】市町村立中学校 88 校、義務教育学校後期課程 2 校及び県立特別支援学校中学部 4 校

中学校調査	実施予定学校数	実施学校数（実施率）	実施生徒数
公立学校合計	94	94（100％）	4,942 人

II 公表について

1 公表の内容

- (1) 島根県及び全国の教科に関する調査の結果
- (2) 島根県及び全国の質問調査の結果
児童生徒質問調査及び学校質問調査の回答状況

2 公表結果に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であること。

中学校理科については、IRT（項目反応理論）方式で実施。学校（自治体）ごとの結果は、IRT スコア（IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点）で表示し、個人の結果は 5 段階の IRT バンドで表示する。

3 その他

島根県教育委員会のホームページ及びしまねの教育情報 Web「EIOS」に公表資料を掲載

III 教科に関する調査の結果

1 結果の概要（島根県と全国の平均正答率との比較）

- ① 小学校理科、中学校国語の平均正答率は全国平均並みであった。
- ② 小学校国語、算数、中学校数学の平均正答率は全国平均を下回った。
- ③ 小学校国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均並みであったが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「情報の扱い方に関する事項」は全国平均を下回った。
- ④ 小学校算数では、すべての領域において全国平均を下回った。
- ⑤ 中学校国語ではすべての事項、領域において全国平均並みであった。
- ⑥ 中学校数学では、「数と式」、「図形」、「関数」領域において全国平均を下回ったが、「データの活用」領域では全国平均並みであった。
- ⑦ 小学校理科では、「エネルギー」領域は全国平均を下回ったが、「粒子」、「生命」、「地球」の領域は、全国平均並みであった。
- ⑧ 中学校理科の IRT バンド分布グラフは、全国と比較すると「4」の割合が低く、「2」と「3」の割合が高かった。

2 各教科の平均正答率・IRT スコア

【小学校（国語・算数・理科）】

	平均正答率（％）		
	島根県	全国(公立)	差
国 語	64	66.8	-2.8
算 数	55	58.0	-3.0
理 科	56	57.1	-1.1



【中学校（国語・数学）】

	平均正答率（％）		
	島根県	全国(公立)	差
国 語	53	54.3	-1.3
数 学	46	48.3	-2.3

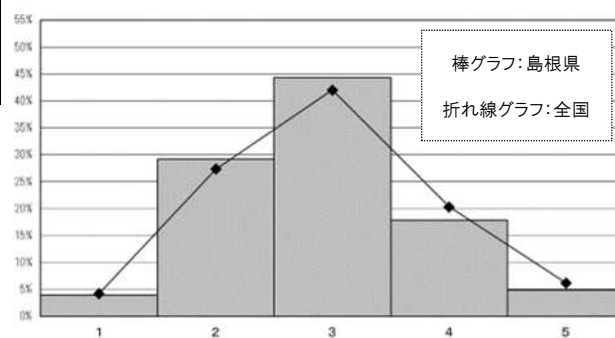


【中学校（理科）】

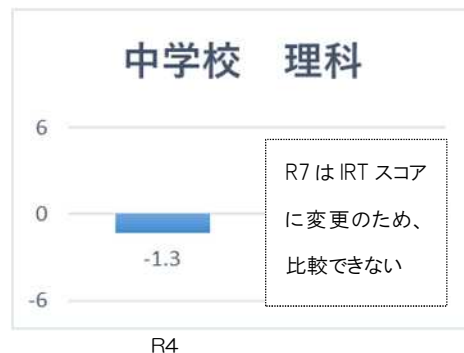
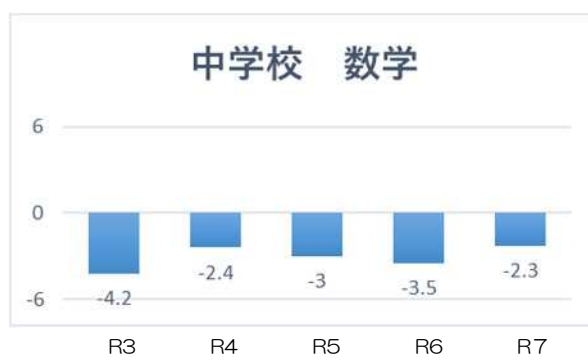
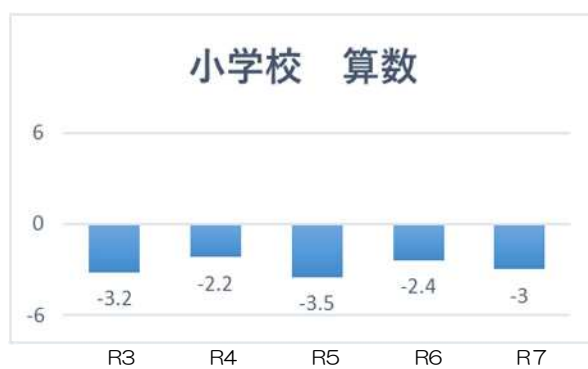
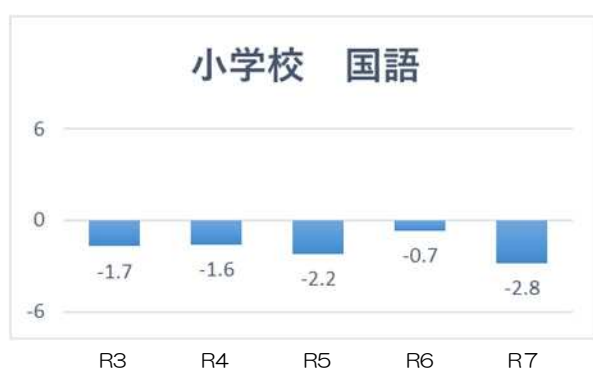
	IRT スコア		
	島根県	全国(公立)	差
理 科	494	503	-9



[IRT バンドグラフ]



【参考】各教科の正答率の全国との差（経年変化）



理科は、R 3、R 5 及び R 6 の実施なし

3 各教科の正答数分布グラフ及び分類・区分別集

【小学校 国語】

・：概要 ○：成果 ●：課題

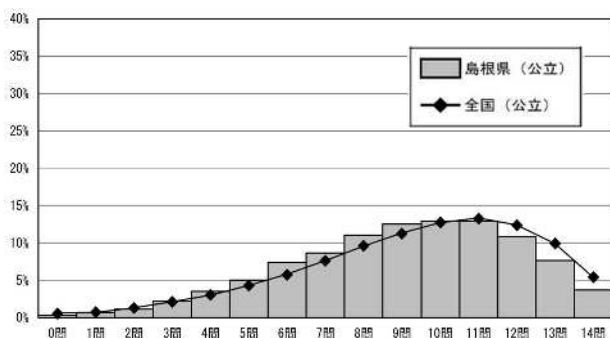
【これまでの課題】

- A 目的や意図に応じて、集めた情報を分類したり、関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題が見られる。
B 登場人物の相互関係や心情などについて、暗示的な描写を基に捉えることに課題が見られる。

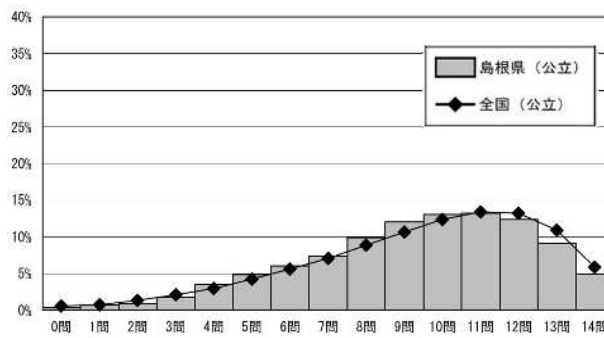
【本調査の状況】

- ・県平均正答率は64%であり、全国平均を下回っている。
 - ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は全国平均を下回っている。
 - ・「情報の扱い方に関する事項」は昨年度、全国平均並みだったが、今年度は下回っている。
- ①学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができている。
②時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができている。
①情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことに課題が見られる。…A
②「書くこと」において、内容のまとまりや段落相互の関係に注意して文章構成を考えることに課題が見られる。…A

1 正答数分布グラフ [R7]



【参考】[R6]



2 分類・区分別集計結果 [R7]

学習指導要領 の内容	対象 設問数	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	76.7	76.9	-0.2	—
情報の扱い方に関する 事項	1	59.0	63.1	-4.1	△
我が国の言語文化に関 する事項	1	79.6	81.2	-1.6	—
話すこと・聞くこと	3	63.4	66.3	-2.9	△
書くこと	3	66.2	69.5	-3.3	△
読むこと	4	55.5	57.5	-2.0	△

【参考】[R6]

学習指導要領 の内容	対象 設問数	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
言葉の特徴や使い方に 関する事項	4	64.0	64.4	-0.4	—
情報の扱い方に関する 事項	1	86.1	86.9	-0.8	—
我が国の言語文化に関 する事項	1	75.3	74.6	0.7	—
話すこと・聞くこと	3	57.3	59.8	-2.5	△
書くこと	2	67.5	68.4	-0.9	—
読むこと	3	69.0	70.7	-1.7	—

○：県が全国を2ポイント以上、上回るもの ー：県と全国の差が2ポイント未満のもの △：県が全国を2ポイント以上、下回るもの（以下同じ）

3 成果の見られる問題2問

【問題番号】 ②四「言葉の特徴や使い方にに関する事項」➡① [島根県値 82.1%] [全国値 81.6%] 【問題内容】【ちらし】の下線部アの漢字を使っ て書き表す（このみ）
【問題番号】 ③一「我が国の言語文化に関する事項」➡② [島根県値 79.6%] [全国値 81.2%] 【問題内容】【資料1】を読んで思い出した【木村 さんの経験】を通して、木村さんが 気付いたこととして適切なものを選 択する

課題のある問題2問

【問題番号】 ①二「情報の扱い方に関する事項」➡① [島根県値 59.0%] [全国値 63.1%] 【問題内容】【話合いの記録】の書き表し方を説 明したものとして適切なものを選 択する
【問題番号】 ②一「書くこと」➡② [島根県値 61.1%] [全国値 65.5%] 【問題内容】【ちらし】の文章の構成の工夫を説 明したものとして適切なものを選 択する

【小学校 算数】

・：概要 ○：成果 ●：課題

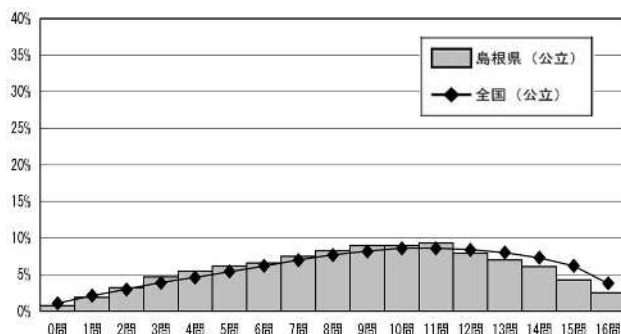
【これまでの課題】

- A 図形の特徴や構成要素を他の図形の計量に生かすことに課題がある。
 B 道のりと時間の二つの量の関係で表される速さなど、二つの量の割合としてとらえられる数量について理解し、説明することに課題がある。

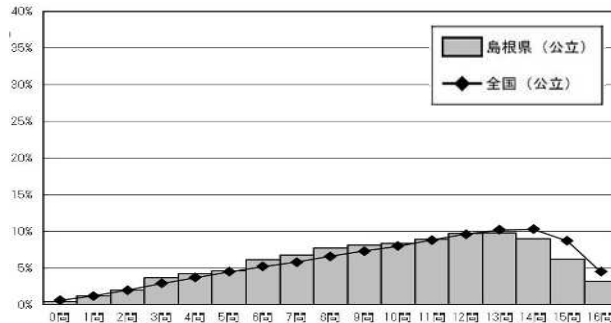
【本調査の状況】

- ・高正答率者が全国と比較して少ない。
 - ・県平均正答率は55%であり、全国平均を3ポイント下回っている。
 - ・領域別では、全ての領域において全国平均を下回っている。
- ①異分母の分数の加法の計算ができていない。
 ②伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができていない。…B
 ③基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述することに課題が見られる。…A
 ④分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述することに課題が見られる。

1 正答数分布グラフ [R7]



【参考】[R6]



2 分類・区分別集計結果 [R7]

学習指導要領 の領域	対象 設問数 ※	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
数と計算	8	59.9	62.3	-2.4	△
図形	4	53.4	56.2	-2.8	△
測定	2	52.5	54.8	-2.3	△
変化と関係	3	54.4	57.5	-3.1	△
データの活用	5	59.6	62.6	-3.0	△

【参考】[R6]

学習指導要領 の領域	対象 設問数 ※	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
数と計算	6	63.5	66.0	-2.5	△
図形	4	64.5	66.3	-1.8	—
測定					
変化と関係	3	46.0	51.7	-5.7	△
データの活用	4	60.2	61.8	-1.6	—

3 成果が見られる問題2問

〔問題番号〕 ③(4)「数と計算」 ①
 [島根県値 83.4%] [全国値 81.3%]

〔問題内容〕 $1/2 + 1/3$ を計算する

〔問題番号〕 ④(1)「変化と関係」 ②
 [島根県値 80.9%] [全国値 82.8%]

〔問題内容〕 新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ

課題のある問題2問

〔問題番号〕 ②(4)「図形」 ①
 [島根県値 32.8%] [全国値 37.0%]

〔問題内容〕 五角形の面積を求めるために、五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く

〔問題番号〕 ③(2)「数と計算」 ②
 [島根県値 18.4%] [全国値 23.0%]

〔問題内容〕 $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と $3/4$ と $2/3$ が共通する単位分数の幾つ分になるかを書く

※グラフの設問数（16問）と分類・区分別集計結果の対象設問数（22問/R7）が一致しないのは、1つの設問に複数の学習指導要領の領域が含まれるため。

【小学校 理科】

・：概要 ○：成果 ●：課題

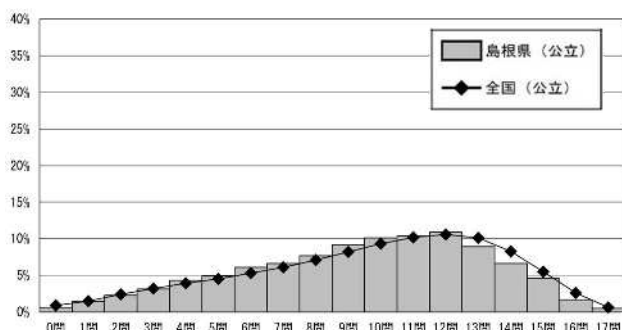
【これまでの課題】

- A 自然の事物・現象について出された気付きから、問題を見いだすことに課題がある。
 B 仮説と結果を照らし合わせたり、根拠となる結果を取り出したりして、考察することに課題がある。
 C 学習内容を身近な現象に当てはめて考え、知識を活用することに課題がある。

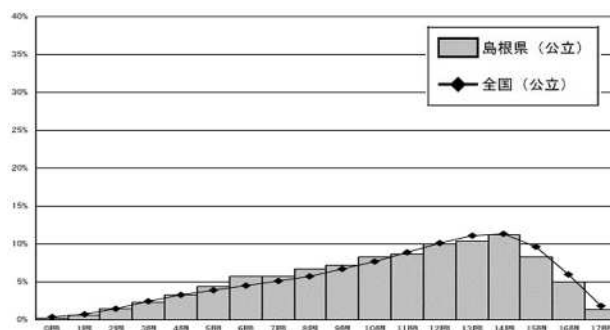
【本調査の状況】

- ・県平均正答率は56%であり、全国平均並みである。
 - ・「エネルギー」の領域は全国平均を下回っている。
- ①花のつくりが分かり、「受粉」を正しく捉えている。
 ②顕微鏡を用いた観察の技能が定着している。
 ①自然の事物・現象についての気付きや疑問をもとに調べたい問題を自分の言葉で表現することに課題がある。…A
 ②観察、実験したことを言葉で説明したり図に表現したりするなど、知識を関連付けて概念化することに課題がある。
 ③学習したことを他の学習や自然の事物・現象、日常の暮らしなどに関連付けて振り返ることに課題がある。…C

1 正答数分布グラフ [R7]



【参考】[R4]



2 分類・区分別集計結果 [R7]

学習指導要領 の領域	対象 設問数 ※	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
エネルギー	4	44.4	46.7	-2.3	△
粒子	6	49.7	51.4	-1.7	—
生命	4	51.3	52.0	-0.7	—
地球	6	65.4	66.7	-1.3	—

【参考】[R4]

学習指導要領 の領域	対象 設問数 ※	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
エネルギー	4	50.2	51.6	-1.4	—
粒子	5	58.7	60.4	-1.7	—
生命	5	73.6	75.0	-1.4	—
地球	5	62.2	64.6	-2.4	△

3 成果が見られる問題2問

【問題番号】 ③（１）「生命」 ①
 [島根県値 72.4%] [全国値 70.7%]
 【問題内容】 ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く

【問題番号】 ③（２）「生命」 ②
 [島根県値 47.6%] [全国値 45.6%]
 【問題内容】 ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ

課題のある問題2問

【問題番号】 ②（４）「エネルギー」 ②
 [島根県値 50.5%] [全国値 55.1%]
 【問題内容】 乾電池２個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ

【問題番号】 ④（３）「粒子」 ③
 [島根県値 55.4%] [全国値 59.8%]
 【問題内容】 海にある氷がとけることについて水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ

※グラフの設問数（17問）と分類・区分別集計結果の対象設問数（20問/R7）が一致しないのは、1つの設問に複数の学習指導要領の領域が含まれるため。

【中学校 国語】

・：概要 ○：成果 ●：課題

【これまでの課題】

- A 資料を用いて自分の考えを分かりやすく伝えることに課題がある。
B 表現の効果を踏まえた描写により自分の考えが効果的に伝わる文章になるよう工夫することに課題がある。

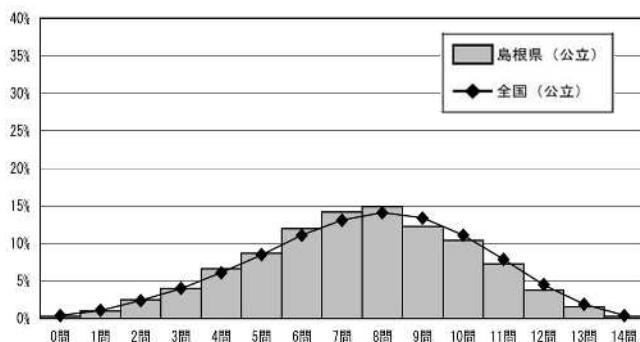
【本調査の状況】

- ・県平均正答率は53%であり、全国平均並みである。
- ・事項、領域別は、全て全国平均並みである。

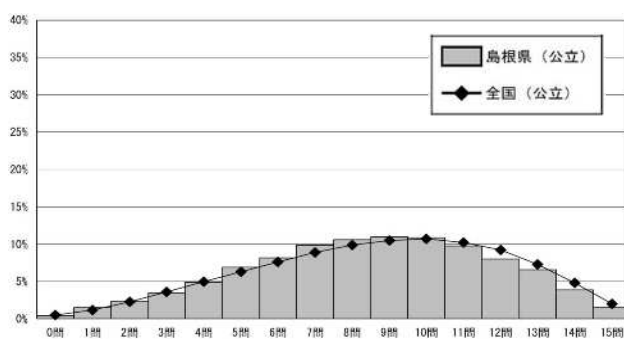
- ①事象や行為を表す語句は理解できている。
②表記を確かめて、文章を整えることが概ねできている。

- ①文脈に即して漢字を正しく使うことに課題がある。
②書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることに課題がある。

1 正答数分布グラフ〔R7〕



【参考】〔R6〕



2 分類・区分別集計結果〔R7〕

学習指導要領 の内容	対象 設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
言葉の特徴や使い方に 関する事項	2	47.7	48.1	-0.4	—
情報の扱い方に関する 事項	0				
我が国の言語文化に関 する事項	0				
話すこと・聞くこと	4	51.8	53.2	-1.4	—
書くこと	5	52.1	52.8	-0.7	—
読むこと	3	60.8	62.3	-1.5	—

【参考】〔R6〕

学習指導要領 の内容	対象 設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
言葉の特徴や使い方に 関する事項	3	57.2	59.2	-2.0	△
情報の扱い方に関する 事項	2	58.5	59.6	-1.1	—
我が国の言語文化に関 する事項	1	79.4	75.6	3.8	○
話すこと・聞くこと	3	56.2	58.8	-2.6	△
書くこと	2	63.4	65.3	-1.9	—
読むこと	4	46.2	47.9	-1.7	—

3 成果が見られる問題2問

〔問題番号〕 ③三「言葉の特徴や使い方に関する事項」㊦①
〔島根県値 65.0%〕〔全国値 61.0%〕
〔問題内容〕「しきりと」の意味として適切なものを選択する

〔問題番号〕 ④一「書くこと」㊦②
〔島根県値 59.0%〕〔全国値 57.3%〕
〔問題内容〕手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する

課題のある問題2問

〔問題番号〕 ①一「言葉の特徴や使い方に関する事項」㊦①
〔島根県値 30.5%〕〔全国値 35.2%〕
〔問題内容〕変換した漢字として適切なものを選択する「かいしん」

〔問題番号〕 ①三「書くこと」㊦②
〔島根県値 59.5%〕〔全国値 63.3%〕
〔問題内容〕ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する

【中学校 数学】

・：概要 ○：成果 ●：課題

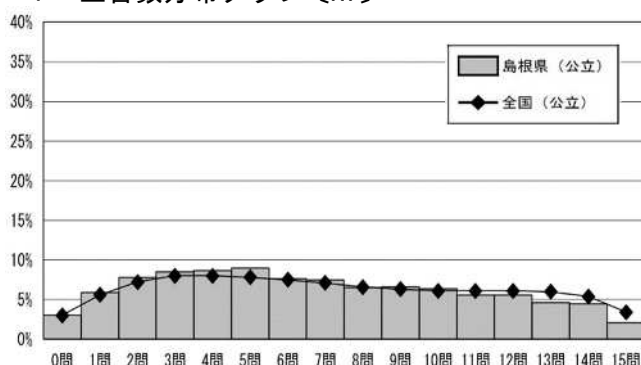
【これまでの課題】

- A 「数と式」の文字式を用いた説明に課題が見られた。
 B 「図形」の筋道を立てて考え、証明することに課題が見られた。

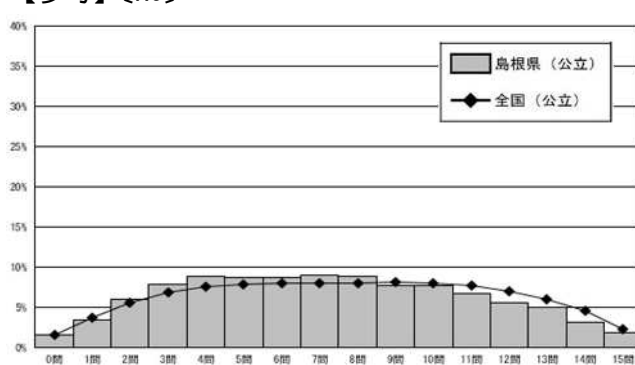
【本調査の状況】

- ・県平均正答率は46%であり、全国平均を2.3ポイント下回っている。高正答率者が少なく、低正答率者が多い。
 - ・「データの活用」は全国平均並みであり、昨年度から改善が見られる。
 - ・「数と式」、「図形」、「関数」は全国平均を下回っており、引き続き課題が見られる。
- ①「数と式」において、予想が成り立たない理由を反例をあげて説明することができている。
 ②「データの活用」において、樹形図を用いて確率を求めることができている。
①「数と式」において、文字を用いて数量を表すことに課題が見られる。
②「数と式」において、目的に応じて式を変形したり、理由を説明したりすることに課題が見られる。…A

1 正答数分布グラフ [R7]



【参考】[R6]



2 分類・区分別集計結果 [R7]

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
数 と 式	5	39.5	43.5	-4.0	△
図 形	4	44.3	46.5	-2.2	△
関 数	3	44.8	48.2	-3.4	△
データの活用	3	58.3	58.6	-0.3	—

【参考】[R6]

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
数 と 式	5	45.1	51.1	-6.0	△
図 形	3	37.7	40.3	-2.6	△
関 数	4	58.3	60.7	-2.4	△
データの活用	4	52.6	55.5	-2.9	△

3 成果が見られる問題2問

- [問題番号] **⑥**(1)「数と式」 **①**
 [島根県値 64.4%] [全国値 62.8%]
 [問題内容] 連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める
-
- [問題番号] **⑦**(2)「データの活用」 **②**
 [島根県値 57.0%] [全国値 55.9%]
 [問題内容] Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する

課題のある問題2問

- [問題番号] **②**「数と式」 **①**
 [島根県値 46.4%] [全国値 51.9%]
 [問題内容] 果汁40%の飲み物a mLに含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す
-
- [問題番号] **⑥**(3)「数と式」 **②**
 [島根県値 37.4%] [全国値 45.2%]
 [問題内容] 連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する

【中学校 理科】

・：概要 ○：成果 ●：課題

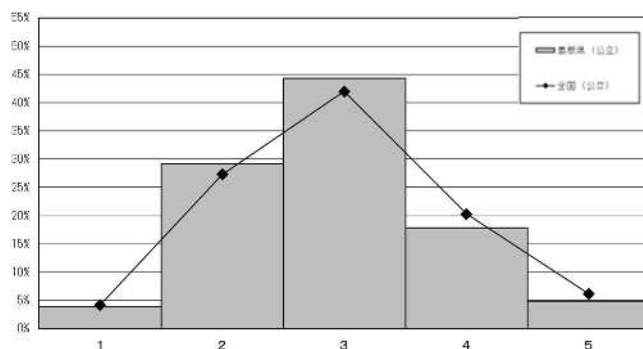
【これまでの課題】

- A 実験を改善して行う方法を記述することに課題がある。
B 知識が他の場面で活用できるように概念等を理解することに課題がある。

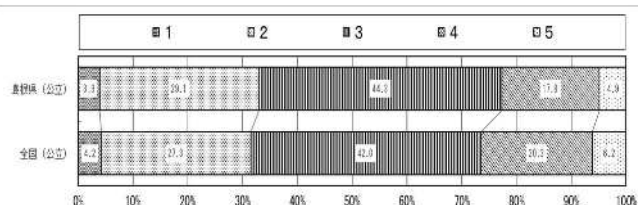
【本調査の状況】

- ・平均 IRT スコアは 494 である。
 - ・IRT バンド分布グラフは、全国と比較すると「1」の割合は低い。また、「2」、「3」の割合が高く、「4」、「5」の割合が低い。
 - ・「理科の勉強は得意だ」（54.9%）、「理科の勉強が好きだ」（65.5%）と回答している生徒の割合が全国よりも高い。
- ①探究の過程における振り返りを記述することができている。
- ②疑問を解決するための課題を記述することができている。
- ①実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明することに課題がある。
- ②既習の知識を、他の場面で活用できるよう概念等を理解することに課題がある。

1 IRT バンド分布グラフ [R7]



IRT バンド分布比較



2 成果と課題（公開問題から）

課題の把握

〔傾向〕 成果②

- ・正答率が 48.4% である。課題を設定するという難易度が高い「5」の問題であるが、約半数の生徒が疑問を解決するための課題を記述できている。
- ・正答率が全国と比較して 2.2 ポイント高い。

〔特徴の見える問題〕

「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな？」という疑問を解決するための課題を記述する。

（設問番号） ①(2) [島根県値 48.4%] [全国値 46.2%]

課題の探究

〔傾向〕 課題①

- ・【解答類型 19】の生徒が 16.7% おり、実験は選択できているが、その実験を行ったときにオシロスコープの波形から何が分かればよいかを記述できていない（無解答）生徒が多い。このことから、予想される実験の結果を記述することに課題があると考えられる。

〔特徴の見える問題〕

考察をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する。

（設問番号） ②(1) [島根県値 10.1%] [全国値 14.0%]

課題の解決

〔傾向〕 成果①

- ・正答率が 80.8% であり、多くの生徒が探究の過程における振り返りを記述できている。
- ・正答率が全国と比較して 1.4 ポイント高い。

〔特徴の見える問題〕

水道水と精製水に関する 2 人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する。

（設問番号） ①(6) [島根県値 80.8%] [全国値 79.4%]

知識・技能

〔傾向〕 課題②

- ・【解答類型 1】の選択肢を選んでいる生徒が 61.9% おり、動いている生物が呼吸を行うと考えている。このため、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いていないと考えられる。

〔特徴の見える問題〕

生物 1 から生物 4 までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する。

（設問番号） ①(4) [島根県値 26.6%] [全国値 29.7%]

IV 児童生徒質問・学校質問調査の結果

〔児○〕：令和7年度 児童質問調査項目○番 〔学小○〕：令和7年度 学校質問（小学校）調査項目○番
〔生○〕：令和7年度 生徒質問調査項目○番 〔学中○〕：令和7年度 学校質問（中学校）調査項目○番
※紙面の都合上、一部質問調査項目は簡略化して記載しています。

1 第2期しまねの学力育成推進プランに関する質問調査項目

(1) 基礎学力を育成する授業づくりの推進

- ①国語の勉強は好きだ〔児 45〕〔生 45〕
- ②算数・数学の勉強は好きだ〔児 53〕〔生 53〕
- ③学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている〔児 36〕〔生 36〕
- ④授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う〔児 37〕〔生 37〕

①について

- ・昨年度に比べ、児童生徒の肯定的な回答の割合は減少している
- ・児童の肯定的な回答の割合は全国値並みである

②について

- ・昨年度に比べ、児童生徒の肯定的な回答の割合は減少している
- ・生徒の肯定的な回答の割合は全国値並みである

③④について

- ・昨年度に比べ、児童生徒の肯定的な回答の割合が減少している

(2) 学習習慣の基盤を育む授業づくりの推進

- ⑤児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている〔学小 25〕〔学中 25〕
- ⑥授業では、児童〔生徒〕が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている〔学小 29〕〔学中 29〕
- ⑦授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた
〔児 32〕〔生 32〕

⑤について

- ・全国値と開きはあるが、経年で見ると児童生徒の肯定的な回答の割合は8割程度で例年度並みである

⑥について

- ・全国値と開きはあるが、昨年度に比べ小中学校の肯定的な回答の割合は増加している

⑦について

- ・経年で見ると児童生徒の肯定的な回答の割合は例年度並みであるが、生徒については、小6調査時から4.7ポイント増加している

(3) 幼小中高の学びをつなぐ保育・授業づくりの推進

- ⑧総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている〔学小 36〕〔学中 36〕
- ⑨総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる〔児 40〕〔生 40〕

⑧⑨について

- ・肯定的な回答の割合が、学校質問調査で9割程度、児童生徒質問調査で8割程度と高い水準である

(4) ICT を効果的に活用した授業づくりの推進

- ⑩5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか〔児28〕〔生28〕
- ⑪あなたの学校では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか〔学小58〕〔学中58〕

⑩⑪について

- ・「ほぼ毎日」と回答した児童生徒、学校の割合は、全国値と大きな開きがある
- ・島根県を経年で比較すると「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合は増加している
- ・児童生徒と学校の回答結果に大きな開きがある

(5) 多様な子供の主体的な学びを支える授業づくりの推進

- ⑫授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた〔児34〕〔生34〕
- ⑬学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫する〔学小30〕〔学中30〕

⑫⑬について

- ・8割以上の児童生徒、学校が肯定的に回答している

2 今年度肯定的回答の割合が高かった質問項目

肯定的回答が9割を越えている又は全国値を上回っている項目から抽出

- (1)朝食を毎日食べている〔児1〕〔生1〕
- (2)毎日、同じくらいの時刻に寝ている〔児2〕〔生2〕
- (3)毎日、同じくらいに時刻に起きている〔児3〕〔生3〕
- (4)友達関係に満足している〔児14〕〔生14〕
- (5)人が困っているときは進んで助けている〔児8〕〔生8〕
- (6)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う〔児9〕〔生9〕
- (7)人の役に立つ人間になりたいと思う〔児11〕〔生11〕
- (8)学校では、児童（生徒）が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かす〔学小82〕〔学中82〕

- ・基本的な生活習慣が身に付いていると考えられる (1)(2)(3)
- ・他者を大切にできる心が育っていると考えられる (4)(5)(6)(7)
- ・学校は、授業と家庭学習を関連付けた指導を行うとともに、家庭での学習の方法について丁寧に指導している (8)

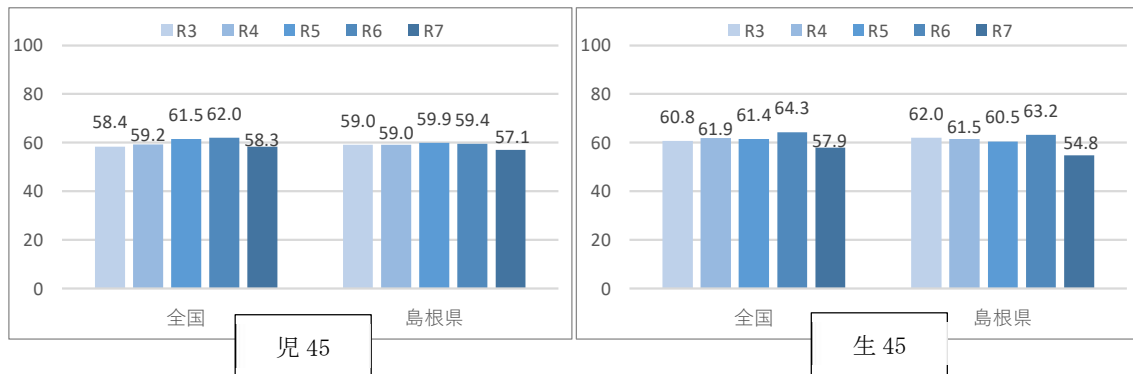
3 まとめ

- ・児童生徒質問・学校質問調査の回答状況から、「探究の過程」を意識した学習について肯定的な回答の割合が高く、継続的な取組によって効果が現れていると考えられる。しかし、児童生徒が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動については、改善が必要である。今後は、第2期しまねの学力育成推進プランの令和7年度重点アクション1で示す「大切にしたい学びの過程」を意識した授業づくりを行い、引き続き児童生徒の主体性を引き出す工夫を進める必要がある。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童生徒の割合はともに減少している。めあてと振り返りを大切にした授業の推進を行うとともに、引き続き、授業の学びと家庭学習をつなぐ工夫をするなど家庭学習の充実を図る必要がある。
- ・授業での ICT 機器の活用は改善傾向にあるが、依然として全国との差は大きく、児童生徒が主体的に端末を活用することに課題が見られる。第2期しまねの学力育成推進プラン令和7年度重点アクション3に記載の【授業における ICT 活用例】より、「考えを共有したり比べたりする場面を設定する」、「考えをまとめ、発表・表現する場面を設定する」ことを中心に、児童生徒が一人一台端末を活用する場を増やすことが必要である。

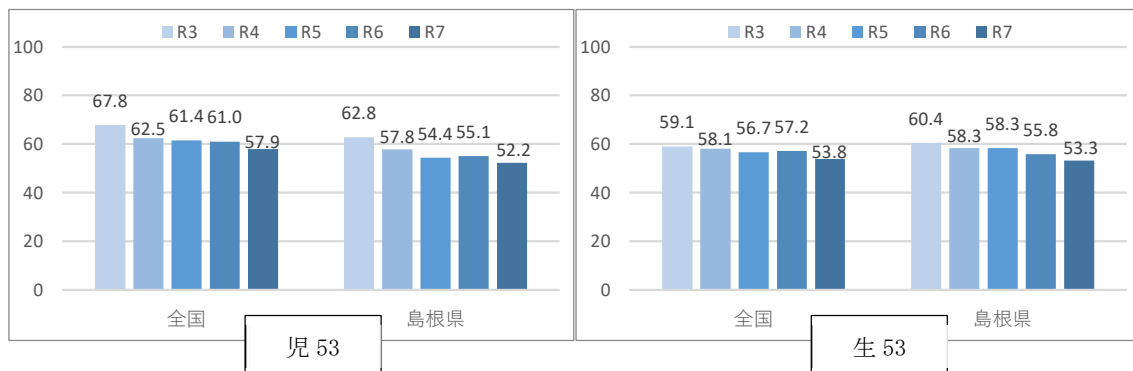
【IVにあげた項目のグラフ】（青のグラフは児童生徒の、緑のグラフは学校の回答）

注：質問項目には、毎年問われていないものもある。

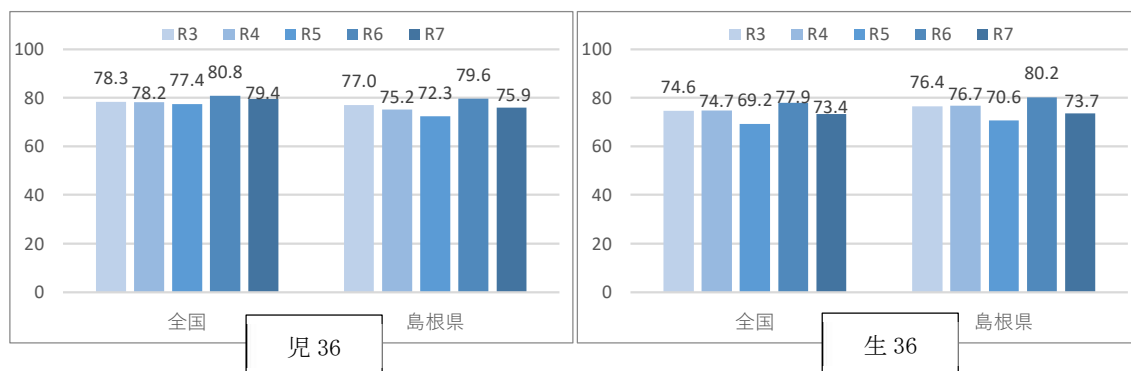
①国語の勉強は好きだ



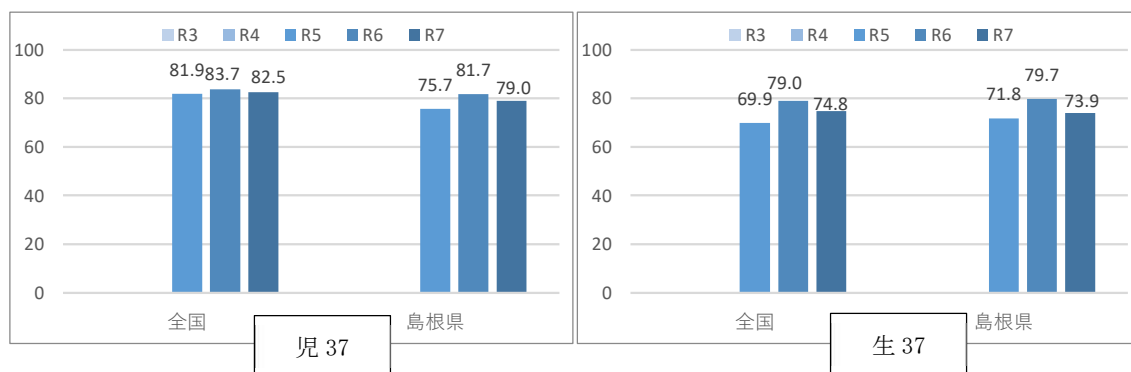
②算数の授業は好きだ



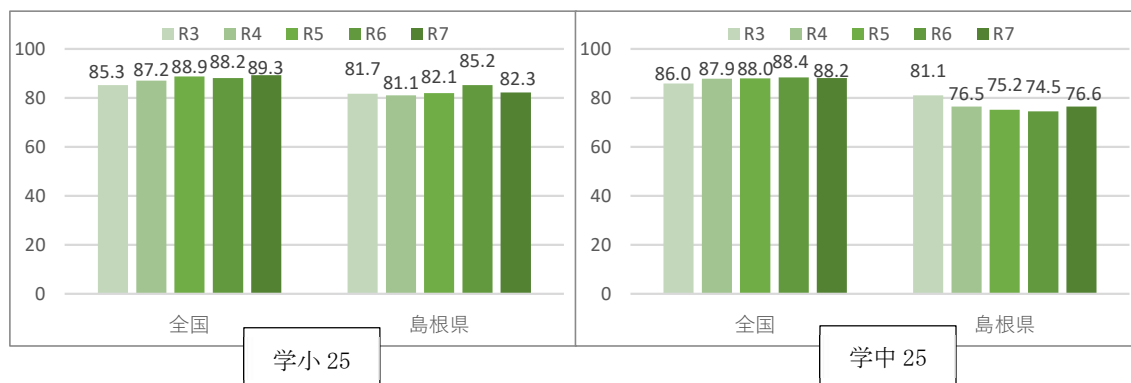
③学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる



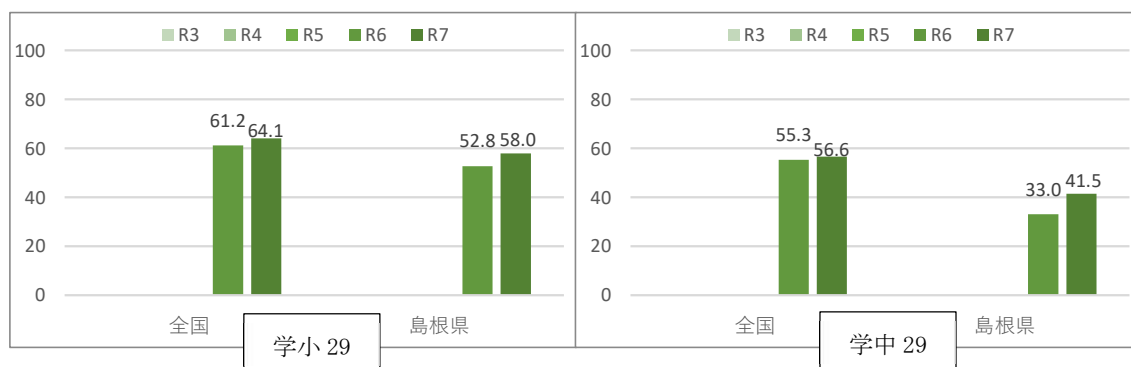
④授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う



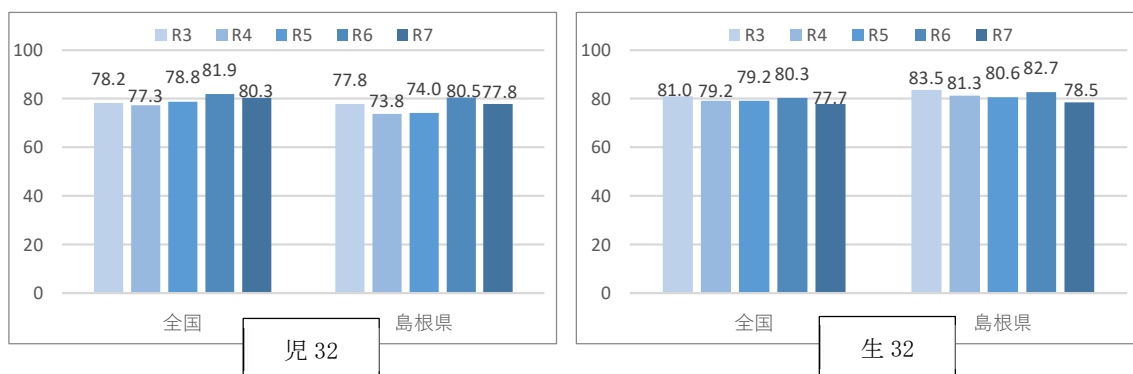
⑤児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる



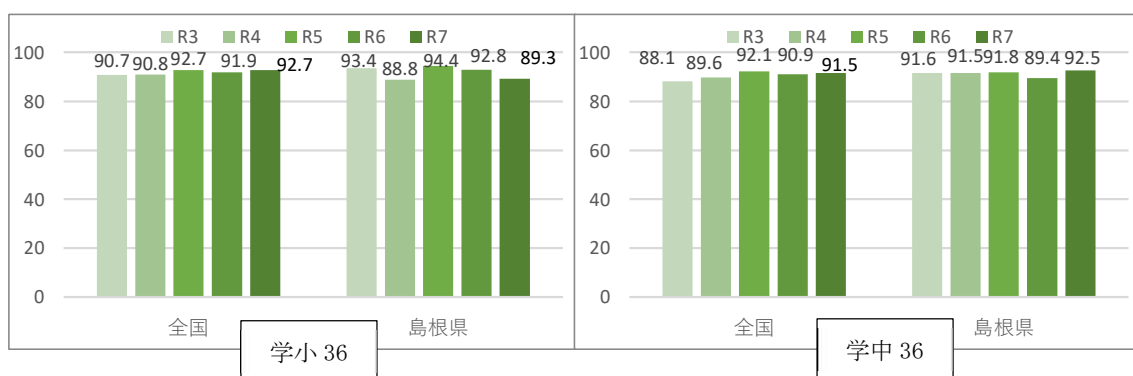
⑥授業では、児童〔生徒〕が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている



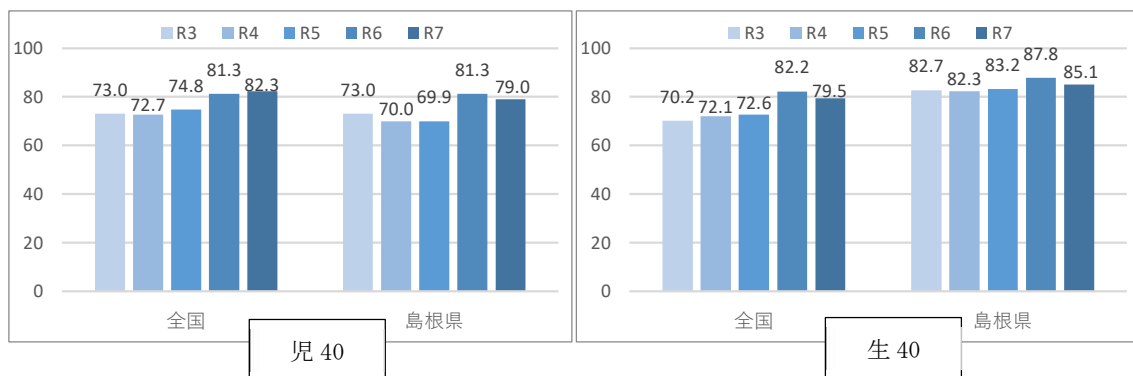
⑦授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた



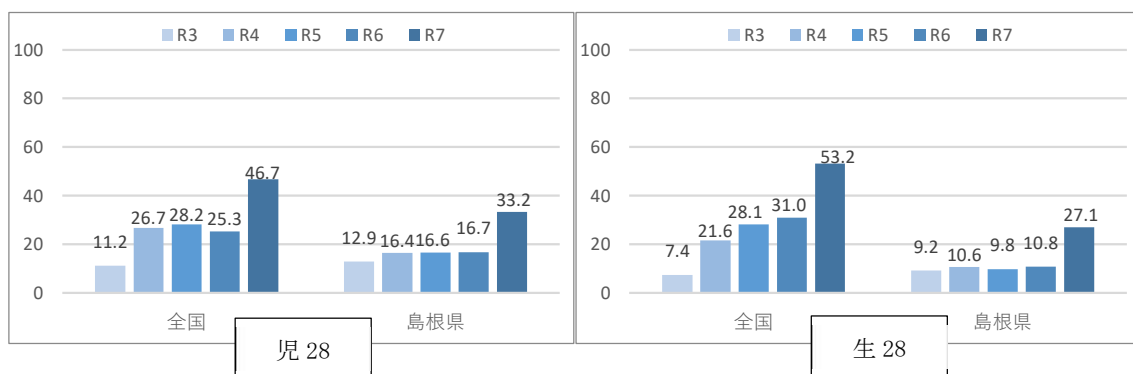
⑧総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている



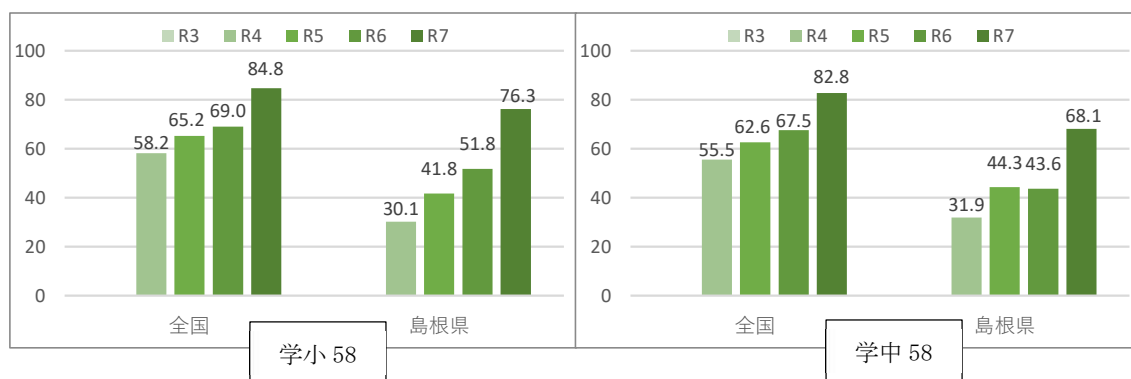
⑨総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



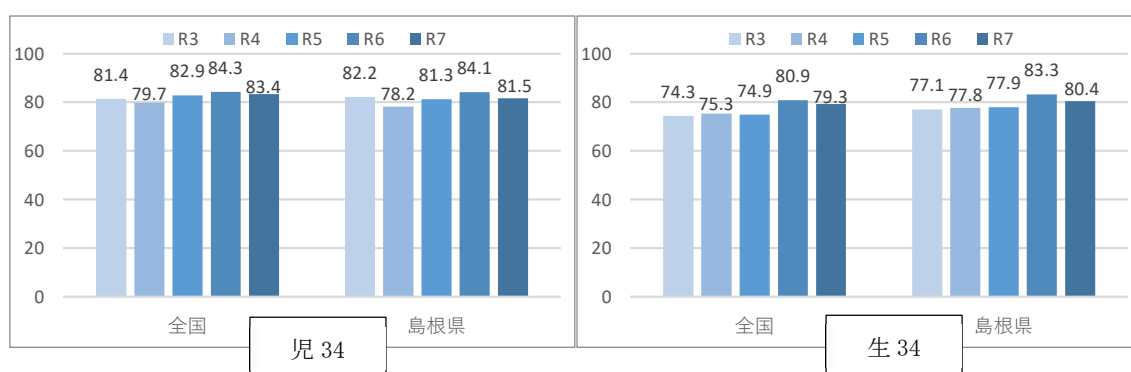
⑩5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」と回答した割合



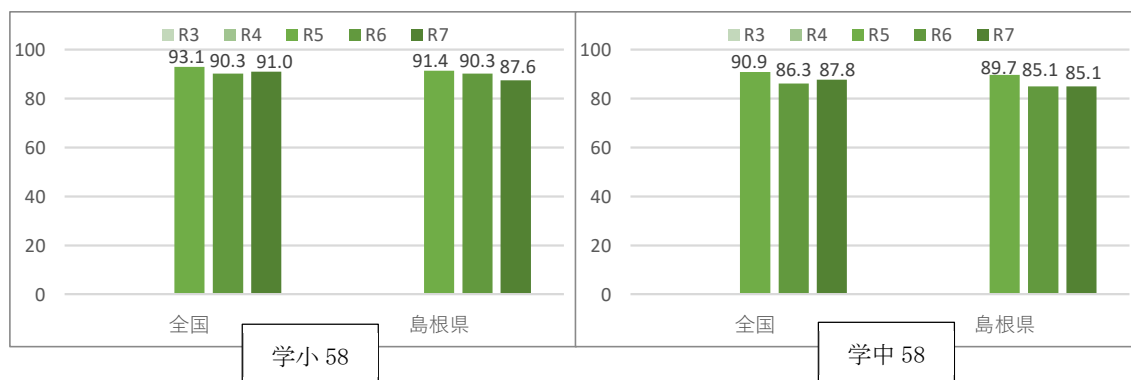
⑪あなたの学校では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか ※「ほぼ毎日」と回答した割合



⑫授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた



⑬学習指導において、児童〔生徒〕一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫する



V 今後の取組

- 1 県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査の結果分析に基づき、第2期しまねの学力育成推進プランの令和7年度重点アクションを実行する。

アクション1 問題発見・解決能力を育む授業

- ・「学びの過程」として、①「問い」をもつ ②課題の設定 ③課題の追究 ④まとめ・表現 ⑤取組の振り返り・価値づけ、という流れの中で、学んだことを意味づけし、既得の知識や経験と、新たに得た知識を活用することで、「思考力、判断力、表現力等」を高める。また、児童生徒が自分で「学びの過程」を活用できるようにする。
- ・自分の考えを語尾までしっかりと話す（説明する）こと、書くことを繰り返し指導する。

アクション2 全国学力・学習状況調査を活用した授業改善

- ・全教員が全国学力・学習状況調査の問題を解き、ねらいや意図を丁寧に読み取ることで、学習指導要領が求める授業の具体像をイメージする。各設問が「学びの過程」のどの段階にあたるかを意識し、授業づくりの視点を得る。こうした分析に基づき、全教科・全学年で授業改善に向けた具体的な取組を進める。
- ・自校の調査結果の解答類型から児童生徒のつまずきの要因を把握し、授業改善策と評価方法を協議する。これらを踏まえて改善に向けた授業を実施し、具体的な評価問題等で改善状況を検証する。

アクション3 ICT活用指導力向上に係る研修での学びを生かした授業づくり

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、「考えを共有したり比べたりする」「考えをまとめ、発表・表現する」「学習記録を活用して、自分のペースや学び方に合わせて学習を進める」など、一人一台端末の日常的かつ効果的な活用を促進する。
- ・Webページ等の情報を利用する際は、内容の信頼性や妥当性を自ら判断できるよう指導を行うとともに、学校図書館の多様な資料を活用することで、必要な情報を主体的に収集・整理・比較して活用する力を育成する。

アクション4 子どもが自分に合った学び方を選択できる授業づくり

- ・学び方や理解の仕方、発達の状況には個人差があることを踏まえ、学習者の視点に立った授業づくりを行う。
- ・学習指導要領の各教科等解説「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」等を参考に授業づくりを行う。
- ・子どもが自ら教材・方法・学習進度等を選択できる学習環境をデザインする。

2 県教育委員会の取組

- ・学力育成会議等で市町村と学力育成の取組について協議するとともに、各市町村・学校の取組や成果等を共有する。
- ・「全国学力・学習状況調査」「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」「英語教育実施状況調査」等で学力育成に係る市町村の状況を把握し、支援を行う。
- ・学校全体で組織的に授業改善が進められるよう、調査結果の分析方法や今後の取組の設定等について、学校訪問を通じた支援を行う。また、小学校理数教科指導力向上プロジェクトにおいては、小学校算数に関し、全国学力・学習状況調査の課題を分析し、授業や家庭学習で活用可能な評価問題や授業プランを提供する。
- ・小学校低学年段階からの学習のつまずきを把握し、授業改善や学習支援に生かすための「学びの基盤に関する調査」（たつじんテスト）を実施し、学年・教科・単元等での指導・支援の事例を普及する。
- ・課題に基づく今後の授業づくりのポイントについて、説明動画、各教科等の指導の重点及び授業チェックリストを作成し、各学校に配信・配付するとともにそれらの活用を促進する。

部活動外部指導者制度に係る謝金単価の改定について

1 改定理由

島根県の最低賃金が引き上げられることを考慮し、公立中学校及び県立学校の部活動指導において顧問教員の指導を補助する「地域指導者」の謝金単価を改定する。

2 部活動外部指導者制度の概要（現行）

	部活動指導員	地域連携指導員	地域指導者
主な役割	単独指導・単独引率	単独指導・複数人引率 (単独指導・単独引率可)	顧問教員と一緒に指導 (単独指導・単独引率不可)
配置要件等	- 教員の部活動関与時間の削減が見込まれる部活動に配置 - 責任を持って、原則単独での部活動指導や大会引率等ができる者 - 顧問の役割を担う者	- 教員の部活動関与時間の削減が見込まれる部活動に配置 - 責任を持って、原則単独での部活動指導や大会引率等ができる者（基本は複数人引率）	- 顧問教員と協力して指導を行う部活動に配置 - 顧問教員と共に技術的指導に協力できる者
報酬・謝金等	1,600 円／時間 通勤手当有	1,300 円／時間 通勤手当有	1,000 円／時間 一部交通費加算 (片道15km以上)
任用形態	会計年度任用職員		有償ボランティア
費用負担	＜中＞ 国1/3 県1/3 市町村1/3 ＜高＞ 県10/10	＜中＞ 県2/3 市町村1/3 ＜高＞ 県10/10	＜中＞ 県2/3 市町村1/3 ＜高＞ 県10/10

- 「部活動指導員」の報酬単価は、国の補助単価どおり
- 「地域連携指導員」の報酬単価及び「地域指導者」の謝金単価は、それぞれの業務内容と「部活動指導員」の業務内容を比較して決定

3 改定内容

(1) 改定額

1,050円／時間（現行1,000円）

※通勤手当相当の100円（居住地から指導場所までの距離15km以上）を除く額

【参 考】最低賃金の改定額

1,033円／時間（現行962円）

(2) 改定額適用日

令和7年11月17日（最低賃金の効力発生日）

令和7年度全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会等の成績について

1 全国高等学校総合体育大会入賞一覧

- 開催地 島根県、鳥取県、岡山県、広島県、山口県
※サッカーは福島県と北海道、ヨット競技は和歌山県において開催
- 開催期間 令和7年7月23日（水）～8月20日（水）
- 島根県開催競技 体操競技（浜田市）、男子バレーボール（松江市）、レスリング（雲南市）
フェンシング（安来市）、なぎなた（出雲市）、カヌー（美郷町）

No.	競技名	選手名(学年)	学校名	性別	種目	順位
1	陸上競技	佐々木 葉音(3)	平田高校	女	800m	2位
2		江角 和華(3)	開星高校	女	200m	3位
3		高橋 あおい(2)・江角 和華(3) 岩本 夏姫(3)・永岡 璃紗(3)	開星高校	女	4×100mリレー	5位
4		福岡 璃子(3)	大田高校	女	女子三段跳	7位
5	ホッケー	横田高校		男		1位
6		横田高校		女		3位
7	自転車競技	持田 虎徹(3)	出雲工業高校	男	スクラッチ	3位
8		江戸 優(3)	出雲工業高校	女	ケイリン	7位
9	卓球	山本 旬真(3)・杉谷 虎太郎(3)	松徳学院高校	男	ダブルス	5位
10	フェンシング	村田 煌牙(3)	安来高校	男	フルーレ	6位
11					エペ	8位
12		薮崎 詩(1)	安来高校	女	サーブル	5位
13	柔道	船木 春樺(1)	出雲西高校	女	78kg超級	5位
14	なぎなた	安田 結衣(2)	出雲北陵高校	女	個人(試合)	5位
15	ボクシング	兵主 瑠聖(2)	松江西高校	男	ミドル級	3位
16		田中 千博(2)	出雲西高校	男	フライ級	5位
17	水泳	廣富 諒(1)	松江南高校	男	高飛込	6位
18	カヌー	宮原 悠煌(3)・松崎 新太(3) 矢野 来樹(2)・飯島 颯(2)	出雲農林高校	男	カナディアンフォア200m	1位
19					カナディアンフォア500m	2位
20		宮原 悠煌(3)・松崎 新太(3)	出雲農林高校	男	カナディアンペア500m	4位
21		矢野 来樹(2)・飯島 颯(2)	出雲農林高校	男	カナディアンペア200m	5位
22					カナディアンペア500m	5位
23		松尾 夏帆子(3)・多々納 未来(3)	出雲農林高校	女	カヤックペア200m	4位
24					カヤックペア500m	5位
25		椎名 紀尊(3)・久保 天明(3) 佐々木 佑斗(2)・阿久津 昭太(1)	島根中央高校	男	カナディアンフォア200m	6位
26		浦川 千穂(2)・斎藤 蓮晶(3) 竹部 姫菜(2)・西浦 ジェシカ(1)	島根中央高校	女	カヤックフォア500m	8位

【公開種目】(将来的な正式種目への採用や競技普及を目的として実施されるもの)

No.	競技名	選手名(学年)	学校名	性別	種目	順位
1	ボクシング	金丸 由良(2)	出雲西高校	女	バンタム級	3位
2		池田 友結(2)	出雲西高校	女	ライトフライ級	5位
3		永瀬 愛華(1)	出雲西高校	女	ライト級	5位
4	水泳	廣富 諒(1)・青木 波琉(3)	松江南高校・松徳学院高校	男	シンクロナイズド飛板飛込	3位
5	カヌー	植出 乙倭(3)	島根中央高校	女	カナディアンシングル200m	2位
6					カナディアンシングル500m	1位
7		佐脇 瑠南(2)	島根中央高校	女	カナディアンシングル500m	8位

2 全国中学校体育大会等入賞一覧

- ・ 開催地 九州ブロック・沖縄
- ・ 開催期間 令和7年8月17日(日)～8月25日(月)

No.	競技名	選手名(学年)	学校名	性別	種目	順位
1	水泳	楫 龍之介(1)	松江市立第四中学校	男	3m飛板飛込	7位
				男	高飛込	8位
2	ホッケー	奥出雲町立横田中学校		男		3位
3	テニス	開星中学校		女		ベスト8
4	卓球	松徳学院		男		ベスト8
5		出雲北陵中学校		男		ベスト8
6	剣道	松江市立第二中学校		女		ベスト8

第49回全国高等学校総合文化祭等の成績について

1 第49回全国高等学校総合文化祭 入賞一覧

- 開催期間：令和7年7月26日（土）～7月31日（木）
- 開催地：香川県内9市町

NO	部門	学校名	生徒氏名（学年）	演目・作品名	結果 成績
1	演劇部門	松江工業高等学校	—	お手紙かみかみ	優良賞
2	写真部門	平田高等学校	安食 真緒 (3)	愛しい視線	奨励賞
3	放送部門 (ビデオメッセージ部門)	松江工業高等学校	—	地域を守る響き！	特別賞

2 第72回NHK杯全国高校放送コンテスト 入賞一覧

- 開催期間：決 勝 令和7年7月24日（木）
準 決 勝 令和7年7月23日（水）
- 開催地：決 勝 NHKホール（東京都渋谷区）
準 決 勝 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

NO	部門	学校名	生徒氏名（学年）	作品名	結果 成績
1	創作テレビドラマ部門	浜田高等学校	—	今を生きる私たちだけど……	準優勝
2	テレビドキュメント部門	松江工業高等学校	—	縁劇祭～仲間と創る舞台～	優良
3	朗読部門	石見智翠館高等学校	三宅 利穂 (3)	—	入選
4	朗読部門	石見智翠館高等学校	安立 葉 (3)	—	入選